



第5回みどりの交流広場
発表集

平成29年3月

公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

第5回

みどりの交流広場 発表集

《開催》

日時 平成29年2月25日 12:00～

場所 第1部 花博記念ホール

(鶴見緑地公園内)

第2部 なにわECOスクエア

(鶴見緑地公園内)

目次

◇開会あいさつ	2
◇会場風景写真	4
◇事例発表	5
<森林保全・植栽管理に関する活動>	
①チーム竹姫	7
②国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園	11
③学校法人谷岡学園 大阪商業大学	15
④大阪市立北田辺小学校	19
講評	23
<公園、地域での活動>	
⑤大阪産業大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 川口研究室	24
⑥奥須磨公園にトンボを育てる会	28
⑦「この指たかれ」服部緑地都市緑化植物園 植物案内ボランティア	32
⑧蜻蛉池公園 夢の森づくり隊	36
講評	40
<生業・伝統文化に関する活動>	
⑨吹田くわい保存会	41
⑩大阪ぐりぐりマルシェ	45
講評	49
全体講評	50
◇ポスター展示・団体紹介	51
チーム竹姫/国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園	53
学校法人谷岡学園 大阪商業大学/大阪市立北田辺小学校	54
大阪産業大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 川口研究室/奥須磨公園にトンボを育てる会	55
「この指たかれ」服部緑地都市緑化植物園 植物案内ボランティア/蜻蛉池公園 夢の森づくり隊	56
吹田くわい保存会/大阪ぐりぐりマルシェ	57
豊中緑化リーダー会/泉大津緑化ボランティア協議会	58
秋篠川源流を愛し育てる会/中区まちづくり咲一輪「花輪(かりん)」	59
春日山原始林を未来へつなぐ会/一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金	60
かのご里山村/淡路島マンモス	61
すみれ・花フレンズ/中京・花とみどりの会	62
◇開催概要	63

開会あいさつ

田中 充

(公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 専務理事)

1990年、こちらの鶴見緑地で「国際花と緑の博覧会」が開催されました。われわれ花博記念協会は、そのときの開催の理念である「自然と人間との共生」を継承・発展させるための事業を数多く行っています。この「みどりの交流広場」もその一環であり、自然との関わりのある活動を日頃行っている団体の方がこの場に集まり交流していただくために始めたもので、今年で5回目になります。



今年は10の団体の事例発表と、20の団体のポスターの発表があります。特に事例発表では、先ほど司会の方からも紹介がありましたように、森林保全や植栽管理に関する活動、公園や地域での活動、生業や伝統文化に関する活動の三つのカテゴリーに分けて発表していただき、そのカテゴリーごとに、今日お越しにいただいているコーディネーターの近畿大学の田中先生からご講評を頂く予定です。この交流広場を通じて、事例発表やポスターセッションの中で積極的に意見交換していただき、できるだけ交流の輪を広げていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

コーディネーターあいさつ

田中 晃代

(近畿大学総合社会学部 准教授)

近畿大学総合社会学部の田中と申します。

第1回のみどりの交流広場でもコーディネーターをさせて頂き、様々な市民活動のプレゼンテーションを聞かせていただきました。とても素晴らしいと感じ、交流会にも参加し、そのときからお知り合いになった方もいらっしゃいます。

今日も皆さんのご発表を聞いて、また新しいつながりができたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。



会場風景写真



発表会



ポスター展示



交流会

事例発表

第5回みどりの交流広場

■森林保全・植栽管理に関する活動■

チーム竹姫

国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園

学校法人谷岡学園 大阪商業大学

大阪市立北田辺小学校

■公園、地域での活動■

大阪産業大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 川口研究室

奥須磨公園にトンボを育てる会

「この指たかれ」服部緑地都市緑化植物園 植物案内ボランティア

蜻蛉池公園 夢の森づくり隊

■生業・伝統文化に関する活動■

吹田くわい保存会

大阪ぐりぐりマルシェ

事例発表①

「納豆菌付着竹炭などを用いた 水質浄化の取り組み」

チーム竹姫（大阪府大東市）

堀田 尚志



1. チーム竹姫について

私たちは、「住んでいるまちに、澄んでいる川を」をテーマに、納豆菌を付けた竹炭を水の中に入れて水質浄化する活動を4年間続けてきました。

大東市は生駒山地の西側にあり、きれいな水が流れてきますが、途中で汚されてしまい、地域の川はきれいと言うにはほど遠い状態です。でも何とかなるのではないだろうかということで、この試みを始めました。

もともとの始まりは、大阪産業大学と小金屋食品という稲わらで納豆を作っている会社との連携でした。竹筒の中に納豆を入れて発酵させたらどうなるか実験してみたところ、味がマイルドになり、それがテレビなどでも取り上げられて、非常に売れ行きが良くなりました。そのお手伝いを「大東環境みどり会」という私たちのシニアのグループが請け負っていて、その関係でチーム竹姫が水質浄化にも関わるようになりました。

大東環境みどり会は、もともと大阪産業大学と大東市環境課と一緒に始めた「だいとうシニア環境大学」が10年近く前から行われていて、その卒業生が集まった会です。現在、七つのグループに分かれて活動していますが、その有志がチーム竹姫に加わっています。つまり、産官学民によるボランティア活動です。

2. 新堀川の水質浄化実験

水質浄化実験を行った場所は、鶴見緑地から約4km東にある大東市役所前の新堀川という農業用水路です。市民が非常に多く集まる、目に付きやすい場所です。大東市の提案公募型委託事業の助成を頂いています。

竹炭に目を付けたのは、もともと竹林が大東市内に多く、放置されてしまっていたので、竹を何とか有効活用できないかと考えたからです。大阪産業大学の先生からは、竹炭には有機物を吸着する力があり、微生物の繁殖場所になることに加え、大東市には納豆を作る会社があるので納豆菌が手に入りやすく、納豆菌が竹炭に吸着した有機物を分解してくれるという助言を頂きました。

私たちはシニアのグループですから、お金もあるわけではないし、知恵も大したものではありません。そこで、誰でもどこでもできるような形にするため、メンバーが各自の家で納豆菌を培養して、寒天を使って竹炭に付け、それをネットの中に入れて水路の中に吊るす方法を考案し、実験を始めました。

それ以外に、水中に空気を送り込めば微生物がもっと繁殖しやすくなると考え、電気を使うのはもったいないので太陽光パネルを使って発電することにしました。太陽光パネルの台にエアープンプを付けて空気を送り込み、ヤクルトの空容器を頂いて、それを通して水を循環させたら、微生物が住み着くようになりました。

それから、水耕栽培も始めました。植物は水中の窒素やリンを吸収するので、水質が浄化され、

見た目もきれいになって市民の方々に喜んでいただける側面もあります。11月ごろに植物を刈り取って、その中の窒素、リンを大学で測定していただいています。このように、見た目も水質もきれいになるという二重の効果が期待できる方法も始めています。

実験をしている場所の少し上流に谷川中学校があり、その前が汚いので、竹の筒を並べてごみが引っ掛かるようにし、ごみの発生を抑えています。2014年10月にアオコが発生して非常に汚い状態になり、ごみがごみを呼ぶという現象が起きましたが、実験を始めてからアオコの発生がなくなりました。すると、水生生物がたくさん見つかりました。竹炭は半年ぐらいで交換するのですが、その中からタウナギやタニシなどが見つかり、非常に住みやすい環境になってきたと思っています。

水質測定も月1回行っています。水質浄化装置周辺の4カ所（浄化区）と谷川中学前（対照区）で採水し、濁度計とCOD（化学的酸素要求量）を測ります。それ以外に透視度計を手作りし、ペットボトルをつないで上から何センチまで見えるかを測っています。その結果、特にアオコが発生しやすい夏場は、1年たつと対照区も浄化区もきれいになりました。

3. 今年度の成果と今後目指すこと

今年度の成果としては、2年前まで夏場に発生していたアオコの発生がなくなりました。これだけでもきれいになりましたが、水耕栽培で花が水面に咲いていることで、市民の方に喜んでいただきました。癒やしの空間になっていると言っていただいています。その分、ごみの投棄が少なくなりました。しかし、まだゼロにはなっていません。これを何とかゼロにするために、私たちはごみを見つけるたらその場で回収するようにしています。竹炭に納豆菌を付ける方法は場所や手間暇が掛かるので、誰でもできる方法として今年度から、スポンジに納豆菌を付着させて、その周りに竹炭を置いたペットボトルを沈める方法に簡略化しました。また、使用済みになった竹炭をごみにするのはもったいないので、水路の周辺に敷いて雑草が生えるのを抑えています。

この事業が目指すのは、誰でもどこでも川の浄化ができる方法を確立することです。また、水面がきれいになれば、ごみが捨てられることも減ります。それから、水の恩恵を私たちの次の世代にも知ってほしいです。それから、魚や草花と共生できる親水空間をつくり出すため、多くの市民が参加できるイベントを開催したいと思います。そして、「川のきれいなまち、大東」とはっきり胸を張って言えることを目指したいと思います。

質疑応答

（講師） どなたが竹炭に納豆菌を付けようと言い出したのですか。

（A1） 大阪産業大学で水の浄化を専門に研究されている先生からのアドバイスです。

（講師） 竹炭を使うのは聞いたことがありますが、納豆菌を付着させるところがこのアイデアのとても面白いところだと思います。大東市では御領水路の水質浄化が有名です。そういう人たちともつながる可能性があるかもしれません。

（A2） 御領水路では田舟の体験乗船を月2回行っていて、そこからのアイデアも多少頂いています。大東にはレンコン畑がたくさんあったので、ハスを浮かべることも検討しています。

● 発表資料

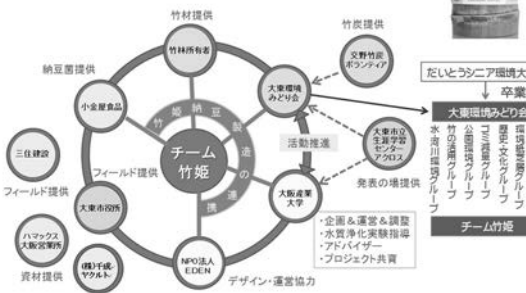
納豆菌付着竹炭を用いた 水質浄化実験

住んでるまちに 澄んでる川を！



2017年2月25日

チーム竹姫について 産官学民によるボランティア活動



だいたうシニア環境大学 卒業
大東環境みどり会
大東市立生涯学習センターアオコス
水質浄化実験指導
チーム竹姫

企画・運営と調整
水質浄化実験指導
アドバイザー
プロジェクト共有

デザイン・運営協力

新堀川の水質浄化実験


- 平成28年度大東市提案公募型委託事業
- 大東市役所東別館前の農業用水路をきれいに




なぜ竹炭と納豆菌を使ったの？

竹林が放置され、山が荒れている。→ 竹の有効活用
竹炭の有機物の吸着力、微生物の繁殖場所
大東市に天然の納豆を作る会社があり、納豆菌が手に入る
竹炭に吸着した有機物を納豆菌が分解してくれる
大阪産業大学の先生の助言

納豆菌を付着させた竹炭をネットに入れて水路に



納豆菌を家で培養 寒天を使って竹炭に ネットに入れて 水路に吊るす

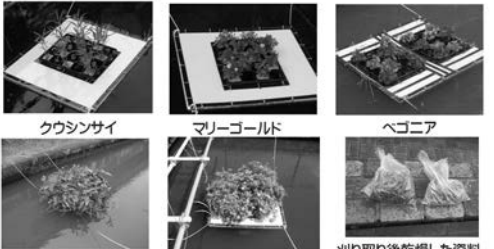
太陽光発電パネルを使って

- 水路の2か所に太陽光パネル9枚(計750W)設置
エアープンプ12個、吸い上げポンプ2台を稼働
(水中に酸素の供給と水の循環を図るため)



太陽光パネル手前5枚、奥4枚 エアープンプで酸素供給 ヤクルト容器を通して水を循環

水耕栽培による水質浄化




クウサンサイ マリーゴールド ヘゴニア

刈り取り後乾燥した資料

水に浮かべたポットで野菜や花を栽培、水中の窒素やリンの除去と癒しの空間を創り出す。11月に刈り取り

ゴミや浮草のバリア

- 実験箇所から300m上流の谷川中学前に竹で作ったバリアを張りゴミとアオコ対策



2016年10月 アオコの発生がない

2014年10月 アオコの上にゴミが

竹で作ったバリアにゴミがかかった

水路で見つけた生き物



カダヤシ (メダカではありません)

アメリカザリガニ

アカミミガメ (ミドリガメ)

竹炭ネットに住み着いていた タウナギとタニシ

大きなコイ (尻尾しか見えません)

水質測定

毎月1回5か所から採水して、気温・水温・濁度・COD・PH・透明度・透視度を測定し記録する



水質測定



濁度計



COD測定

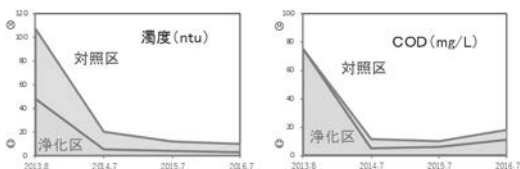


手作りの透視度計



水質測定の結果

この実験を開始した2013年8月から毎年夏場、浄化実験装置近くの2か所と対照区として谷川中学前の水路から採水した検体の濁度とCODを測定、その結果をグラフ化した。対照区と比較して浄化区での水質の改善が1年後から見られた。



今年度の成果

- 2年前まで夏場に発生していたアオコの発生がなくなった
- 水耕栽培で花が水面に咲いていることを多くの市民に喜んでいただけた
- ゴミの投棄が少なくなった(ゼロにしたい)
- 従来の竹炭に納豆菌を付着する方法を簡略化した
- 使用済みの竹炭を土手に敷き詰め、雑草の繁茂を抑制した(ゴミを出さない)



スポンジに納豆菌を付着、その周りに竹炭を入れる



使用済みの竹炭を敷き詰めた

この事業の目指すことは

- 誰でも・どこでも川の水を浄化できる方法を確立する
- 水面がきれいになれば、ゴミを捨てることも減る
- 水の恩恵を感じることを、子どもたちに知ってもらう
- 魚や草花と共生できる親水空間を創り出す
- 多くの市民が参加できるイベントを開催する
- 川のきれいなまち大東市を目指す

平成28年度大東市提案公募型委託事業 成果報告会

3月26日(日)

午後1時30分から4時30分まで
住道駅前 アクロス多目的室 入場無料



ご清聴ありがとうございました!
ポスター展示もご覧ください

事例発表②

「あいな里山公園の植物管理について」

国営明石海峡公園神戸地区

あいな里山公園（兵庫県神戸市）

田中 洋次



1. 本公園の紹介

国営明石海峡公園は、「自然と人との共生、人と人との交流」を基本理念とする公園で、淡路地区と神戸地区の二つに分かれています。

その神戸地区の愛称が「あいな里山公園」で、昨年5月28日に開園しました。コンセプトは、大都市近郊における「里地里山文化公園」です。目標は、手入れがなくなり荒れた里山を公園に整備することで、美しく懐かしい里地里山の風景に再生し、地域で培われてきた里山文化を継承することです。また、園内には絶滅危惧種が多く生育生息していることもあり、神戸市内一の生物多様性を保全、市民と協働でつくり育てることを目標としており、兵庫県における貴重な生物多様性の拠点となり、市民が満足できる体験活動の場になることを目指します。

あいな里山公園は神戸市北区にあり、三宮駅から車で30分という都市近郊に位置します。全体で233.9haと広面積の里山を保有しています。現在は第1期開園として、棚田ゾーンの41haのみ開いています。棚田ゾーンとは、農地を中心とした主に草地が広がるゾーンです。

里地里山文化公園でできることとしては、一つ目に里地里山の風景を楽しむことです。あいな里山公園では、放棄された里山を現代の技術を使って復元しており、地域特有の急傾斜の棚田、段々畑の景観、木漏れ日の中での散策を楽しめます。また、今では珍しくなった茅葺き古民家を周辺地域から移築し、来園者のくつろぎの場として利用できます。

二つ目に、細やかな伝統の季節感に基づいた里山体験です。いつ訪れても里山を楽しめる体験作業を用意しています。田畑での耕作をはじめ、まき作りなどの樹林整備作業やクラフト体験、公園内で取れた農産物の調理など、季節に応じた楽しい企画を展開しています。また、四大イベント（田植えまつり、やまももまつり、里山まつり、初まつり）時には、田植え、やまもも摘み、稲刈り体験などの特別な催しも多数提供しています。

三つ目に、里山の恵みに触れ合うことです。体験作業で汗をかいたら、そのお礼として園内の農作物をお分けし、里山の営みが自然の恵みに結びついていることを感じてもらえます。また、整備段階から参画いただいている市民団体の知恵や技術を発揮したり、来園者による体験作業自体が全て公園管理につながっていく参加型の運営を進めています。

2. 植物管理の取り組み

植物管理の方向性としては、里地里山の風景を再生することを目標に、伝統的な草地の維持、外来種の駆除など、生物多様性に配慮した順応的管理を行います。例えば草刈りなら、刈り取りの時期や頻度、方法によって種の組成は変化するので、場所ごとに目標を設定して管理していきます。

園内には炭焼き小屋があり、周りの山にはコバノミツバツツジが咲いています。一部ですが、キキョウやツリガネニンジン、カワラナデシコ、ウツボグサなど外来種の生育する伝統的な草原も残っており、樹林や草原などにおいて、それぞれの管理目標を目指して維持管理していきたいと思っ

ています。

在来種保全を意識して、刈り取り作業を行っています。在来の多年草を守るため、草丈を少し残します。春の七草などの一年草は、発芽の条件・環境を整えます。ネザサやセイタカアワダチソウなどが蔓延している場合は地際まで刈り、できる限りダメージを与えます。芽生え促進のため、刈り取った草は全て除去しています。

田畑の管理も植物管理の一環です。泥が深い田ですが、田植え体験では子どもたちが一生懸命植えてくれています。途中でカエルの観察をしたり、田んぼの雑草のスズメノテッポウで草笛を作ったりもしました。稲を掛ける稲木には、竹林管理で出た園内の竹を使っています。震災の鎮魂の祈りを込めた竹燈明台も、お客さまやボランティアと一緒に作りました。

ササユリなど人気の植物は持って帰られることがあり、花が咲いたかなと思って見に行ったときにはなくなってしまっていることがありました。シュレーゲルアオガエルやカブトムシなど、いろいろな生き物にも出会いますが、持ち帰ってはいけないことになっています。

園内では獣害もあります。春から秋にかけてシカが畑にやってきます。イノシシも生息しています。まだ電柵内には入ってきませんが、いつか飛び越えて畑に入ってくるかもしれません。里山風景再生のため、キキョウなど在来種の種を採取しています。

3. 植物管理における課題

植物管理の課題としては、在来種の保全、外来種駆除の徹底、作業員の保全に対する意識向上などがあります。来年度からは、里山植物管理のプロを育成し、きめ細かい順応的管理を行っていくことで対応します。草刈りだけが仕事ではなく、獣害対策や植物採集の対策が必要であり、日々の巡回などにより徹底します。この点で成功例をお聞きできたらうれしいです。

また、里山の管理は重労働が多いです。里山としての面白さだけではマニアックですが、他ではできない貴重な体験だと思ってくれる人もいます。その方たちの労力が公園管理の力になります。先日、かいぼり体験をしました。ホームページだけの呼び掛けでしたが、お客さんが来てくれました。「また他の体験もしてみたい」と言ってくれました。このことから、マニアックな里山体験によって「好き者」を集めることで里山のファンにつながるのではないかと思いました。大変だからお客さまはしないだろうという先入観を捨て、どんなことでもやってみることが大事だと思いました。

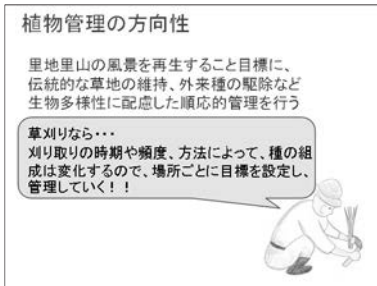
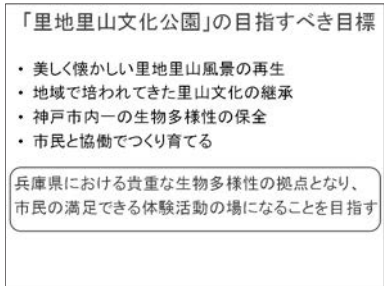
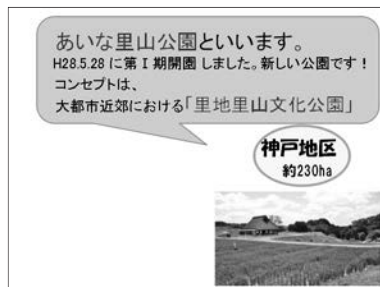
また、広面積の里山での管理作業を多様なプログラムに生かすことで、かつての里山を感じ、時間が止まったかのような「あいなじかん」につながると思いました。

質疑応答

(Q1) 絶滅危惧種のカワバタモロコは現在どうなっていますか。


(A1) カワバタモロコは園内にいます。カワバタモロコを保全推進している市民団体もいます。かいぼりをした池は2段になっているのですが、下の方の池にいました。園内にはたくさんのため池があるので、他にももしかしたら生息しているかもしれません。

● 発表資料



刈り取りの方法

- 多年草は残す管理をする。
刈り払い機の八枚刃などを使い草丈を少し残す
※チップソーでもうまく刈ればOK
- 一年草は発芽の条件・環境を整える
- ネザサなどが蔓延している場合は、地際まで刈り、できる限りダメージを与える
- 刈り取った草は除去する(芽生え促進)




植物管理における課題

- ・ 在来種の保全、外来種駆除の徹底
- ・ 作業員の保全に対する意識の向上が必要
- ・ 獣害対策が必要
- ・ 植物採集対策が必要
- ・ 重労働が多い(かいほり、レンコン堀り、樹木伐採)
- ・ 里山としてのおもしろさだけではマニアックであり、里山らしい一般的な集客できる植物も必要

植物管理における課題

来年度から、里山植物管理のプロを育成し、きめ細かい順応的管理を行っていく！

日々の巡回などにより対策を徹底する！
→成功例を教えてください

大変な作業が多いが、それを他ではできない貴重な体験と思ってくれる人も！労力になる！

意外に人気があることがわかった「かいほり」

- ・ 里山体験→「好きものを集める」→「公園のファンに繋がる」
- ☆先入観を捨て、どんなことでもやってみることが大事
- ☆広面積の里山ということを多様なプログラムに活かす
- 時間が止まったような「あいなじかん」につながる

絶滅危惧種「自然で遊ぶ子ども達」も保全できる頑張りです！

あいな里山公園 名前だけでも覚えて帰ってくださいね！

事例発表③

「大阪商業大学新キャンパス校舎を中心とした 緑化促進活動」

学校法人谷岡学園 大阪商業大学（大阪府東大阪市）

田中 陽一郎



1. 本学の紹介

本日は、平成 29 年 4 月よりオープンする大阪商業大学の新校舎、ユニバーシティ・コモンズ リアクトの緑地帯整備事業についてご紹介いたします。本工事は、大阪府の緑の基金事業の補助金を活用して整備しました。

大阪商業大学は近鉄奈良線河内小阪駅近くにある学生数約 6500 名、経済・経営分野の 2 学部 4 学科を有する大学です。系列校に大阪商業大学高等学校、大阪商業大学堺高等学校、大阪商業大学附属幼稚園、神戸芸術工科大学、大阪緑涼高等学校があります。

本学は、「世に役立つ人物の養成」を建学の理念に掲げ、経済・経営の知識を習得し、社会で活躍できる人材を輩出してきました。建学の理念の具体的な解釈として、四つの柱を設けています。国際社会に通用する「思いやりと礼節」をわきまえた責任感の強い立派な人間、学習活動に真面目に取り組み「基礎的実学」を習得した人間、いかなる状況の変化にも対応できる「柔軟な思考力」を保持する人間、困難な状況下でも常にプラス思考で取り組み「楽しい生き方」ができる人間の四つです。

本学の特徴的な取り組みとしては、次世代のビジネスリーダーに必要とされる素養や知識、スキルを学ぶ少数精鋭の OBP コース（大阪商業大学ビジネスパイオニアコース）や、専門知識とスキルを身に付け、かつ英語を中心とする語学力を養い、グローバルに活躍する人材を育てる GET コース（グローバル・アントレプレナー・トレーニングコース）、社会的問題に対する解決能力を座学とフィールドワークの実践で身に付けるフィールドワークゼミナールがあります。

4 月からオープンするユニバーシティ・コモンズ リアクトは、本学のメインキャンパスからさらに河内小阪駅に近い場所に、学生の自学自習や能動的な学修を促すためのスペースを中心に備えた新校舎です。広々とした機能的な空間で学生たちが自由に議論を戦わせ、さまざまな問題解決の糸口を自らの力で見いだしていきます。

ここには、学生とさまざまなイベントやスポーツレクリエーション、セミナーなどで交流したいという地域住民なども利用できる地域交流ルームや、自学自習だけでなくスポーツも楽しむことのできるアリーナ、緑地帯を一望できるカフェ、知識の習得には欠かせないブックショップなどを備えています。

2. 緑化促進活動について

新校舎は、メインキャンパスと最寄り駅の間地点に位置しており、この地域は緑が比較的少ないエリアになるのですが、緑地帯を整備することで街中に潤いをもたらすことを目的に、緑化促進活動を計画しました。

東大阪市の木、花であるクスノキやウメを植樹したほか、近くの司馬遼太郎記念館で「菜の花忌」というイベントが開催されているので、それにちなんで菜の花の種を「郷土の庭」と名付けたスぺ

ースにまいています。まだ葉も出ていませんが、「安らぎの森」と名付けたスペースや約 1000m²の芝生のスペースを備え、地域住民の憩いの場として、建物の開館時間内に開放しています。

新校舎の立地は三方が公道に接し、緑地帯にアクセスしやすく、敷地を南西から北東に貫く通りがあり、三角形の石畳によって描き出されるさまざまな模様と学生のにぎわいが相まって、より多くの人々に親しまれる場所になることを願っています。

本計画地は、商業地、商店街やマンション、住宅など多くの通行人がいる立地です。その関係もあつてか、付近は緑地帯が比較的少なく、本計画の実施が緑豊かな新たな空間を形成することにつながり、地域住民や府民の憩いの場の提供、緑化促進活動に取り組むことが可能になると考えています。また、建物の敷地には、一般の人が建物内を通行できるような通路があり、緑地帯を利用しやすい動線となっていると考えています。

緑地帯は、四季を感じさせる高木から地被類にわたる植栽を施した緑地空間となっており、安らぎの空間を形作っています。

3. その他の取り組み

現在、清掃活動は学生ボランティアが中心となって行われています。大学周辺にとどまっていますが、今後は学生、教職員、さらに地域住民、近隣商店街などとも協力して、清掃美化活動を広げていきたいと考えています。先ほども少し触れた菜の花など、この校舎を中心に少しずつ緑を増やしていく活動を推進できればと思います。

今後とも大阪商業大学ユニバーシティ・コモンズ リアクトをよろしく願いいたします。私どもは幼稚園から大学まで擁する学校法人です。社会人の皆さま方の受け入れも行っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

質疑応答

(講師) 出来上がったらやはり管理が必要になってくるのですが、一般市民の方もボランティアとして登録していただくようなことを考えていらっしゃるのでしょうか。大学の施設は結構開放されているようで開放されていませんよね。そのハードルはとても大きいと思うのですが、いかがでしょうか。

(A1) ゆくゆくは地域の方々と連携しながら、一緒に植物を育てていくような活動をしたいと個人的には考えています。ただ、大学の関係者、自治体の方、そういったいろいろな取り組みをされている方々のお考えもありますので、そのあたりはもう少しじっくりと時間をかけながら考えていきたいと思っています。基本的に一部、大阪府から補助金を頂いて緑化整備をしたので、できる限り開かれた憩いの場にしたいと思っています。

● 発表資料



まずは、大学の紹介を…

○大阪商業大学
所在地：東大阪市御厨栄町4-1-10
最寄駅：近鉄奈良線 河内小阪駅 徒歩10分

系列校

- 大阪商業大学高等学校 (東大阪市御厨栄町)
- 大阪商業大学増高等学校 (堺市中区堀上町)
- 大阪商業大学附属幼稚園 (東大阪市御厨栄町)
- 神戸芸術工科大学 (神戸市西区学園西町)
- 大阪緑涼高等学校 (藤井寺市春日丘)

姉妹校

- 至学館大学、同短期大学部、同高等学校、同附属幼稚園

大阪商業大学の紹介

・「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とし、その理念を支える4つの柱(解釈)として、
「思いやりと礼節」……
「基礎的実学」……
「柔軟な思考力」……
「楽しい生き方」……
を掲げています。



大阪商業大学は、大学院1研究科2専攻、
大学2学部・4学科を擁する経済・経営・商
学の実学教育を実践する大学

- 大学院 地域政策学研究科
地域経済政策専攻
経営革新専攻
- 経済学部 経済学科
- 総合経営学部 経営学科
商学科
公共経営学科

大高大の特色教育

- ・大阪商業大学ビジネスバイオニアコース (OBPコース)
- ・グローバル・アントレプレナー・トライアルコース
- ・ワールドワークゼミナール
- ・ビジネスアイデアコンテスト



続いて、新校舎「ユニバーシティ・
commons リアクト」を簡単に紹介
いたします。

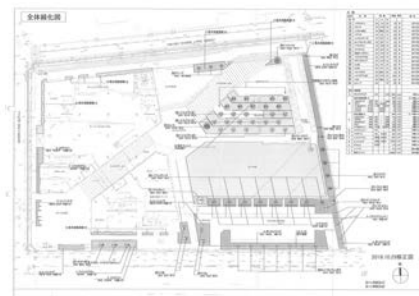
学生の活動の場となる新たな空間のスペース
を創出し、地域の人々との交流できる
「憩いの場所」を提供することで、街中を
活性化させる施設です。

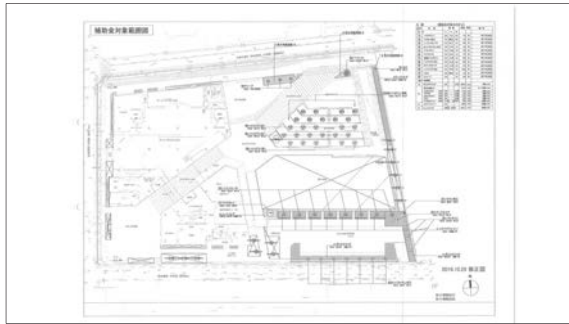


それでは、続いて今回の建築計画と
緑地帯の計画についてお話しします。

新校舎の建築と緑地帯の整備

・最寄り駅と大学を結ぶ地点に新校舎を建築し、
あわせに緑地帯を設けることで、街中に潤いをもたらします。





緑化事業の目的

- ・緑地帯の少ない近鉄河内小阪駅周辺の本計画地に、みどり豊かな新たな空間を形成し、地域住民や府民の憩いの場の提供ならびに緑化促進活動を推進することを目的としています。

事業内容

- ・本計画地は、河内小阪駅前周辺に位置し、商業(商店会)やマンション住宅等、多くの通行人がある立地です。
- ・この付近は比較的緑地帯が少なく、本計画の実施はみどり豊かな新たな空間を形成することになり、地域住民や府民の憩いの場の提供や緑化促進活動に取り組むことが可能になると考えます。
- ・建物配置は、一般人が建物内を通行できる通路を計画し、さらに敷地3面は公道とも接しており、緑地帯が利用しやすい導線も確保しています。

- ・緑地帯は四季を感じさせる高木から地被類にわたる植栽を施した緑地空間を創出し、「憩いの庭」として約1,000㎡の芝を張るなどやすらぎの空間を形作っています。

「開かれた大学」 - 大阪商業大学 -

- ・大阪商業大学は以前から、「開かれた大学」として地域社会との連携活動を行っているが、本計画実施により更に緑地普及活動や地域連携活動を促進します。
- ・近隣企業、行政機関、自治会、商店会等及び当学園の大阪商業大学高等学校、同付属幼稚園へ清掃・美化活動を広げること考えています。

その他の取組み

- ・この地域では市民・学校・各種団体などが協力し、「菜の花」を咲かせる運動が毎年行われていることから、本学においても緑地帯に「郷土の庭」エリアを設け、「菜の花」を咲かせることにより、地域の緑化活動に協力するとともに相互に連携できる体制作りを考えていきます。



事例発表④

「学校ビオトープの再生・活用」

大阪市立北田辺小学校（大阪府大阪市）

教諭:松田 健吾 児童:大矢 鈴、神 瑠杏、澤田 翔鷹、吉村 唯



1. ビオトープ再生の取り組み

私たちの学校には、「なでしこの森」というすてきなビオトープがあります。春には花が咲き、新しい1年生を迎えてくれる桜の木があります。夏には緑色の葉が木陰を作り、涼しげな気持ちにしてくれます。秋には紅葉し、リスがやってきそうです。冬には落ち葉がじゅうたんのようになり、桜の枝には新しい花を咲かせようとつぼみが膨らみます。私は、こんなに立派な桜の木のあるビオトープが大好きです。今はたくさんの生き物が集まる自然いっぱいの場所ですが、3年前までは子どもが入れない荒れた場所でした。

昔のビオトープには、使われなくなった植木鉢や花壇の植物、廊下にたまった砂や石が捨てられ、栽培植物や雑草が好き勝手に生え、池が見えなくなるほどでした。そのため、子どもも入れない危険な感じのする場所でした。そんなビオトープをみんなが使える憩いの場所にしたいと、当時の5年生が中心になってビオトープ再生の取り組みが始まりました。

まず、環境について学んだことを生かして、どんなビオトープにするのかを考えました。そして、5年生で学習した稲作を学校でもできないかと考え、ビオトープの中に田んぼを作ることになりました。田んぼを作るために、重い防水シートをみんなで協力して運び、田んぼに水をためました。JAの方に協力してもらって田植えをしたときは、はだしで泥に足をつける感触が楽しくて、今までにない体験ができました。夏には稲が大きく成長し、花を咲かせることも知りました。秋の稲刈りでは一人一人が鎌を持ち、稲刈りを手作業することの大変さを知りました。また、脱穀や精米にも手間が掛かることを知り、お米一粒の貴重さを学ぶことができました。

ビオトープにはたくさんの生き物が集まるようになりました。たくさんの虫や植物、水辺の生き物が集まり、子どもたちがいつでも入れる場所にしたいとビオトープの改修作業を始めました。

話し合った結果、ビオトープの再生にはガマ、キショウブの除去、ごみやがらくたの回収、むき出しになった防水シートの張り替えなど多くの作業が必要であることが分かりました。2014年2月の大改修では、児童全員が作業に参加しました。

2. アンケート調査の結果から

ビオトープが再生して2年がたち、北田辺小学校の子どもたちがビオトープについてどう思っているか、アンケートを取って調べました。学校にビオトープを造ることで、虫捕りをしたり植物を観察したりする児童が増え、虫や植物が好きな児童は70%になりました。

3～4年生に「ビオトープができて変わったことはありますか」と聞いたところ、「自然に触れ合えるようになった」「自然を感じられるようになった」などの意見があり、ビオトープができたことをとても喜んでいるようでした。

全校児童にビオトープの中で好きな場所を聞いたところ、池と答えた児童が最も多く、水辺の生き物が増えたことを喜んでいる児童がたくさんいました。植物が好きと答えた児童も多かったです。

5～6年生に「ビオトープは自分にとってどんな所ですか」と聞いたところ、「虫に刺されそうで

怖いけど、虫が住める場所だからいい所」「生き物と触れ合える場所」などの意見があり、私たちが目指していた憩いの場になりつつあります。

3. 守り続けるために

ビオトープが完成した 2 年目からは、ビオトープについていろいろな視点で学習を進めました。授業でビオトープに行き、生き物や植物を観察したり、生態系や水の循環についてゲームを交えて学習したり、それぞれの学年がビオトープや自然について学びました。

「なでしこの森」を守っていくには、これからもビオトープを活用し続けることが大切です。5 年生で田植えや稲刈りを続けていくこともその一つです。また増え過ぎた植物の量を管理し、池の状態をきれいに保つことも大切です。これらをただのごみにしてしまうのではなく、腐葉土になるように集めることも必要です。

春からは私たちは中学生になります。私たちが 3 年間取り組んだ活動を次の世代に引き継いでいく必要があります。残り少ない時間ですが、これからもビオトープが活用され、みんなの憩いの場になるように、仲間と協力しながら頑張っていきたいと思います。

質疑応答

(Q 1) 憩いのビオトープになっていて、温かいものを感じます。これを造るのにどのくらいの日数がかかったのでしょうか。それから、水辺にはどんな生き物がやってきましたか。

(A 1) 1 年かけて大方の形をつくったのですが、これだけの植物が生えるまでには 2 年ほどかかっています。

(A 1) 水辺にはホウネンエビやヤゴなどの生き物もいました。壁にカエルが張り付いていたこともあって、トンボが産卵しているときもありました。

(Q 2) 水生植物はどんなものがありますか。

(A 2) デンジソウとハスもありました。ガマも生えていました。

(Q 3) 「なでしこの森」というネーミングはどういう意味ですか。お米は収穫した後、食べましたか。

(A 3) お米はみんなで食べました。「なでしこの森」は全校児童にアンケートを取って、いい意見を取り入れました。

(A 3) 東住吉区の花がナデシコで、児童が付けている名札に入っている校章にもナデシコが使われているので、この名前がいいということで話し合って決めました。

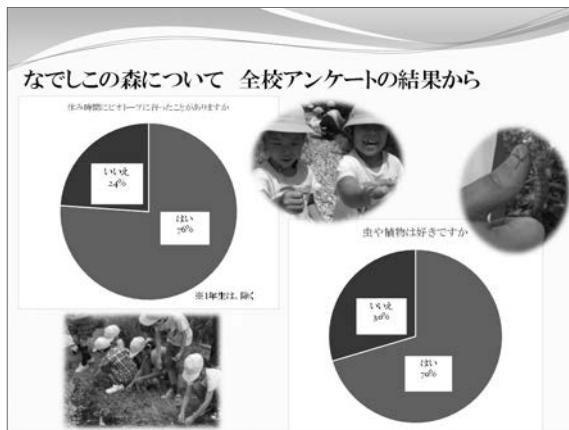
(Q 4) 私の学校でも 2 月 28 日にビオトープ完成式をするのですが、1 年かけて子どもたちと一緒に取り組んできて、こうして 4 人の皆さんが話しているのを見て、とてもうらやましいと思っていました。

話を聞いていて、アンケートを取っているのがとてもいいと思いました。自分たちだけでやっている、自己満足になってしまいそうになりますが、全校の皆さんにアンケートを取ると、厳しい意見もあるかもしれませんが、意見がまた自分たちのパワーに変わるのだらうと思いました。アンケートはどのように取ったのですか。

(A 4) 自分たちで聞きたい項目を決めて、それを紙に書いてもらいました。低学年、中学年、高学年に分けて、それぞれに質問内容を変えました。

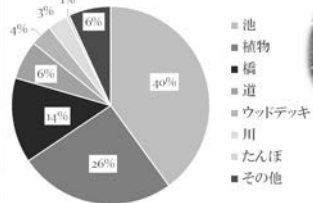
(A 4) それを教員が印刷して、各学級に児童が配り、また児童が回収し、集計まで自分達で全部頑張りました。

● 発表資料



なでこの森について 全校アンケートの結果から

ビオトープで好きな場所



ビオトープについての学習



これからも続けていく必要のある活動

田植え・稲刈り

増えすぎた植物を減らし、管理する。
池に堆積した、ヘドロやアオミドロの除去
松の木の落ち葉の除去
腐葉土として管理していく

学校みんなの力を合わせてビオトープをつくろう！

2014年の5年生

2015年の5年生

2016年の6年生と5年生



2017年の5年生へ

ご清聴
ありがとうございました



講 評

田中 晃代

どれも素晴らしい活動だなという印象です。いかにいろいろな方に関わってもらうか、管理も含めて関わっていただけるかという点で工夫されているという気がします。

まず、チーム竹姫は、竹炭と納豆菌を組み合わせることで水質浄化に取り組んでいるというアイデアと、地元住民が主体となり、学校の先生方や専門家と手を組んで、おられるところが素晴らしいと思います。

また、あいな里山公園も、多くの市民の協力を得て、参加型の公園管理を展開されているところは素晴らしかったと思います。

北田辺小学校の方々がアンケートを取って調べている点については、文部科学省でもこれからの学校はアクティブラーニングが必要だとしているのですが、教員の方は皆さん、アクティブラーニングとはどんなことをすればいいのか、かなり迷われています。そんな中で、今回の取り組みでは、行ったことについてきちんとアンケートを取って評価し、自分たちでもう一度振り返るという実習をしていらっしゃると思います。これは本当に先進事例として取り上げてよい取り組みだと感じています。

大阪商業大学は、新たな施設ができて、これからみんなで管理していこうということで、その取りかかりとして、清掃活動を皆さんで行っていくという話でしたので、そうしたきっかけづくりなども大変参考になると思いました。

事例発表⑤

「公園・地域資源を活かした
地域活性化のアクションリサーチ」

大阪産業大学デザイン工学部
建築・環境デザイン学科 川口研究室（大阪府大東市）
澁谷 成彦



1. 研究室紹介

私たちの研究室はランドスケープ・プランニングを専門とする5年目の研究室です。大学の地元である生駒山西麓地域を主な研究フィールドに、地域資源を生かすための政策提言や地域協働プロジェクトを実践しながら研究しています。

研究目標は、共生環境デザイン研究室として、目の前に広がる環境を成り立たせている「つながり」をさまざまな視点から読み取り、生き物を含むみんなが将来に向かって安心して幸せに暮らせる場所をつくるため、「今・この場所」がどうあるべきかを、そこに関わる人と計画し、実行することです。

行動方針は、アクションリサーチを主としています。調査する場所に自ら入り込み、被調査者・空間において行動を共にしながら、自らも主体的に活動に参加し、間主観的にデータ収集を行う方法です。

具体的な研究内容を紹介すると、まず「みどり研究」です。みどりのマネジメントとしてヒツジを用いた緑地管理手法や、歴史・文化的なみどり景観の魅力・意識調査、建築とみどりについてなどを研究しています。「まちづくり研究」では、観光・地域活性化、防災・事前復興、歴史・文化資源の保存と再生についてなど、さまざまなことを研究しています。「人間中心の空間づくり研究」については、調査対象を分け、子ども・若者を対象にしたもの、高齢者・障がい者を対象としたものなどを行っています。

研究室が関わる協働プロジェクトとしては、次の四つをメインに行っています。放置竹林の問題解決に向けて、先ほども紹介された竹姫納豆づくりに企画・デザインの段階から関わったり、環境教育の一環で大東市等と共催で「こども環境教室」を主催したり、公園を生かしたまちづくりとして野外映画祭などの企画・運営をしています。今回は私の卒業研究にも関連した地域資源を生かしたまちづくりについてお話しします。

2. 卒業研究「ぼくらのひらおか」

私の研究は、「シビックプライドを醸成するためのまちあるきマップの制作」がテーマです。対象地である枚岡地域は東大阪市東部に位置し、山とまちの距離が近く、自然と一体となった地域です。

マップ制作の目的は次の通りです。地域の玄関口である近鉄瓢箪山駅周辺に連なる商店街は、地域住民の利用が非常に多く、活気にあふれています。それと、生駒山の入り口に位置し年間10万人が来園する枚岡公園をつなぐ要素があれば、それらの間の地域全体をより活性化させることができると考えました。さらに、枚岡公園で地域と連携しながらできる何かを探すことも目的の一つでした。

そこで、商店街と公園の間で、日常に当たり前存在するけれども価値に気が付きにくい小さな資源を星の数ほどたくさん集め、「まちあるき」という線をつないで将来的に面とすることで、地域の内外から観光者が訪れるまちになると考えました。

そして、現地調査や地域活動などに参加し、若者の視点から枚岡地域の地域資源である魅力を掘り起こして分析し、さらに地域内外に広げていくためのまちあるきマップを制作することで、今後

のまちづくりに実用化することを提案することにしました。

マップ制作では、まず枚岡地域にどのような資源があるのかを知るために、インターネット調査、インタビュー調査、ヒアリング調査、現地調査を行いました。

まず、インタビュー調査ではさまざまな人から話を聞くことができました。商店街の木下さん、マスコット「ひょこたん」を名乗る謎の人物、枚岡神社の権禰宜の濱上さん、松原にお住まいで枚岡梅林に縁のある匿名の方など、さまざまな方と知り合うことができました。

さらにヒアリング調査は、10月23日に東大阪グリーンフェスタ、11月12日に瓢箪山音楽祭に参加して行いました。ここでもたくさんの出会いがあり、枚岡地域にどんな魅力があるのかを聞くことができました。その中で、枚岡神社や瓢箪山駅はもちろん、地元の方しか知らないようなディープな情報を知ることもできました。

そのデータを基に現地調査を9月に3回、10月に2回、11月に2回行いました。それらを分類化、データベース化したところ、約246カ所の資源を見つけることができました。

これらの調査を終えて完成したのが「ぼくらのひらおか」です。観音開きになっていて、開くと枚岡の地名に関するさまざまな情報を掲載しており、枚岡がどこにあるのかということや地名の由来が書かれています。

観音開きをもう一回開くと、ArcMapというGISソフトを使ってマッピングしたときに見えてきた3つの「まちあるきコース」の概要が載っています。また、そのコースで体験できる「5つの魅力」を五角形チャートによって表現し、コースそれぞれの特色や楽しみ方などを分かりやすく解説しています。

これを縦に開くとA2判まで広がり、「ぼくらのひらおか まんきつマップ」が出てきます。特徴的な資源にはイラストを配置し、魅力や楽しさが伝わるように工夫しました。山の魅力の枚岡公園、まちの魅力の瓢箪山駅周辺商店街には別にコラムを設けています。生駒山麓の地形的特徴をイメージできるよう、全体を鳥瞰図で表現しました。

今後の展開としては、地域の協議会などで活用してもらったり、商店街のイベントなどで地域住民に配布したり、さらに住民の方々から意見を募り、より良いものにしていくほか、ラグビーワールドカップなどの際に外国人観光客向けに翻訳版を配布し、滞在をより楽しいものにしてもらうことを期待しています。

人と地域と場をつなげ、地域愛を高める方法として他媒体への展開も考えています。今はアナログ的な紙媒体のマップですが、これからスマートフォンなどを使ったデジタルな観光に発展させ、情報の密度を上げること、もっと小さい子どもでも読みやすいように、絵本のように作り変えることなども考えています。

これから1年間、地域住民と連携しつつ、さらに実用的なものにしようと考えています。

質疑応答

(Q1) 枚岡梅林で最近、伝染病が見つかったために全部切ったというニュースを聞きましたが、枚岡の皆さんの考え方や生活に何か影響はありましたか。

(A1) インタビューしていく中で、枚岡梅林のこともたくさん出てきました。商店街の木下さんなどは、昔から梅林が遊び場だったのでとても悲しんでいました。瓢箪山音楽祭でも、多くの方が梅林に対する熱い思いを教えてください、やはり地域にとってはとても大事な場所だったようで、残念という気持ちが伝わってきました。

● 発表資料

大阪産業大学 共生環境デザイン (H10) 研究室

大阪産業大学
デザイン工学部
建築・環境デザイン学科
澁谷 成彦

**公園・地域資源を活かした
地域活性化のアクションリサーチ**

□ 研究室紹介

□ 澁谷成彦の卒業研究
(シビックプライドを醸成するための「まちあるきマップ」の制作)

研究室の概要

ランドスケープ・プランニングを専門とする5年目の研究室。大学の地元である生駒山運動公園を主たる研究フィールドに、地域資源を活かした地の景観再生や地域協働プロジェクトを実施しながら研究している。

石塚記念ホール
大阪産業大学

研究目標 (基本方針)

共生環境デザイン研究室

目の前に広がる環境を成り立たせている「つながり」を様々な視点から読み取り、生物をふくむみんなが将来にわが安心して幸せに暮らせる場所、地域をつかっていくため、「今・ここ」がどうあるべきかをそこに住む人と計画し、実行することをモットーに研究しています。

研究室の行動指針

アクション・リサーチ (参与観察法)

調査する場所から自ら入り込み、観察対象と交差しながら行動を共にしながら、自らも主体的に活動に参加し、随時随所にデータ収集を行う調査手法。

フィールド・サーベイ
ヒアリング
ワークショップ

みどり研究

①みどりのマネジメント
・ヒックスを用いた緑地管理手法が地域住民に及ぼす影響
・ヒックスを用いた緑地管理手法が景観の価値に及ぼす影響
・東大阪市における市民参加の現状調査と都市管理方針の提案

②歴史・文化的なみどり景観の魅力・価値評価
・生駒山運動公園における「門前」の景観的特徴と住民意識に関する研究
・京都市和歌山における文化的景観に関する研究
・生駒山運動公園の「みどりの量」景観の魅力に関する調査研究

③建築とみどり
・「新建築」における緑化建築の類型化とその評価
・三田市長官邸計画における景観形成基調に定られた緑化基準の現状
・府民の視覚上の利用に関する基礎的調査

まちづくり研究

①観光・地域活性化
・牧野山公園を主要地とした(仮)観光コースとしてのロールプレイングゲーム制作
・シビックプライドを醸成するためのまちあるきマップの制作(Prototype & Map)
・遊覧車乗り場における空間を活性化し、移住政策と移住生活の実感とその魅力
・エリア別のまちづくり活動の傾向分析

②防災・まちづくり
・「地域防災」の視座に資する民間施設再開発の実態調査と分析
・南海トラフ地震に対する事前の備えに関する検討

③歴史・文化資源の保存と再生
・大東市の旧東山に於ける「跡」の建築的特徴と地域性に関する調査研究
・史料館の基礎的調査と活用性の考察
・古家集と古地図の分析に基づいたまちづくりの原型的特徴

人間中心の空間づくり研究

①子ども・若者を調査対象として
・大阪府北山地区における水景空間における利用者の水体験に関する研究
・チキスタイルパークを用いた都市屋外空間における居心地の良い場所の特質分析

②高齢者・障がい者を調査対象として
・住居環境が、高齢者・障がい者の身近な生活環境での安心・不安な場所に関する研究
・大東市北山地区における「アクセシブル」調査

研究室が関わる協働プロジェクト

①設置竹林問題解決
竹の現代的有效活用
-竹編紙工-
-水質浄化社会実験-

②環境教育・環境学習
-緑化企業啓発冊子「みどりって?」-
-子ども環境教室-

③公園を活かしたまちづくり
-東大阪グリーンフェスター-
-野外林園祭(サクラン) -

④地域資源を活かしたまちづくり
-牧野山地区における地域メディア制作-

シビックプライドを醸成するためのまちあるきマップの制作

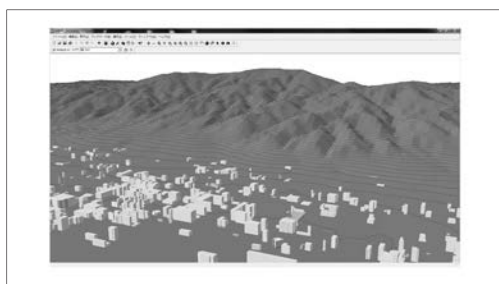
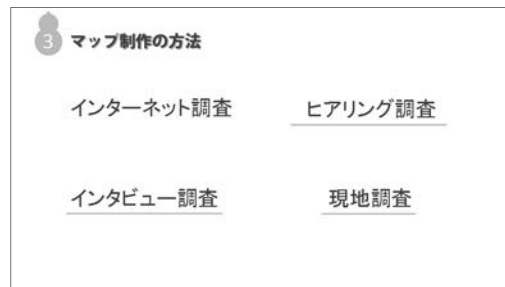
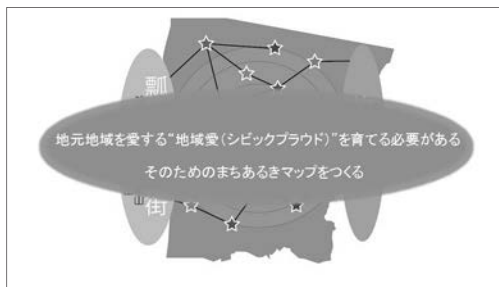
1 背景と目的

© 2016 hokura.or.jp

1 背景と目的

・まちの「元気」と山の「元気」

・公園が地域と連携しながら出来る何かを探している



「奥須磨公園のホタルを復活さそう」

奥須磨公園にトンボを育てる会（兵庫県神戸市）

河合 信彦



1. ホタル復活の取り組みのきっかけ

奥須磨公園は昭和 44 年に開園した神戸市の公園で、甲子園球場の 5 倍に当たる約 20ha の広さがあり、六甲山系の西端の水脈を源とする素晴らしい七つの池と「ホタルの小川」があります。開園当時はホタルが乱舞し、トンボやチョウなど多くの生き物が無数に飛び回る素晴らしい公園で、本当に生き物の天国のような場所でしたが、都市化が進んで昭和 50 年代に生き物がぐんと減少し、とうとうホタルが見られなくなりました。

そこで、初代の石田会長がホタルの幼虫放流会を平成 5 年 3 月に始めたのですが、人が入り込むようになってホタルはなかなか定着せず、どうしてもホタルを飼育しなければならないということになりました。その頃、私は石田会長から「私の後を引き継いでくれ」と言われて引き継いだのですが、ホタルのこともトンボのことも何も分からない状態で困りまして、八千代町（現・多可町）の野間川にホタルが非常に多く乱舞していると聞き、勉強しに行きました。

ホタルは世界に 2000～2900 種類、日本には 40～50 種類ぐらいいるとか、種類はゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルがいるとか、ホタルはどのように生活しているのかということから勉強を始めました。発光酵素のルシフェラーゼの触媒作用で発光素のルシフェリンとアデノシン三リン酸が反応して発光するという仕組みを学んだほか、ホタルの点滅は関西では 2 秒、関東は 4 秒と異なることも知りました。

ホタルの幼虫は、4 月 10 日頃より下旬にかけて水中より上陸し土の中へ潜ります。そして、40 日間ほど経った 5 月下旬頃より 6 月上旬にかけて土中より出て羽化して発光します。雌はあまり飛ばず、雄が乱舞し雌を探して交尾し、雌が産卵したら、その卵が孵化しエサのカワニナを食べながら脱皮を繰り返し大きくなって、翌年 4 月に上陸するというサイクルも体験し勉強しました。

2. 「ホタルの小川」改修

奥須磨公園は非常にいい自然環境なのですが、「ホタルの小川」は塩谷川の源流になっていて、塩谷川は瀬戸内海まで流れています。ところが、台風などで大雨が降ったりすると、どうしても濁流が流れます。そこで考えついたのは、バイパス水路を造ることでした。水路に敷くシートは公園緑化協会から提供いただき、シートの上に砂利を入れて造りました。

昨年 3 月上旬に完成して、ホタルの幼虫放流会を開きました。ホタルのことを勉強したかいがあって、何とか幼虫を飼育することができ、地元の須磨学園の生徒たちや、北須磨団地自治会の西内会長、指導いただいた神戸山手大学の吉岡英二先生などが参加して放流しました。他にも、元須磨海浜水族園の安井幸男先生や青山茂先生、神戸エコアップ研究会の武田敦之先生、三田市の平谷川にホタルを定着された山下義和先生などからもご指導を頂きました。

質疑応答

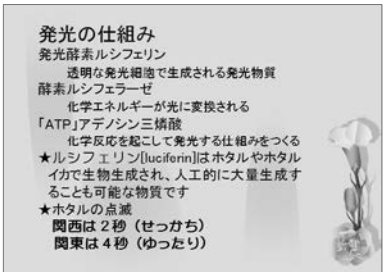
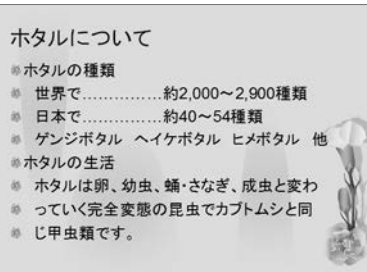
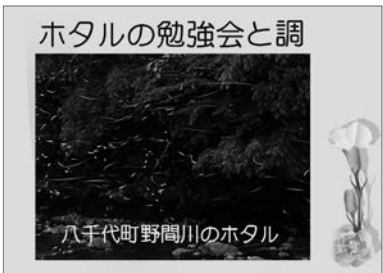
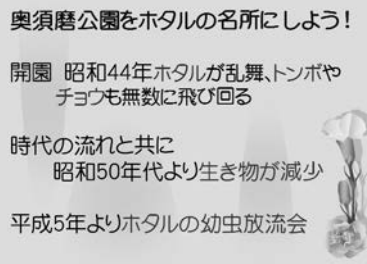
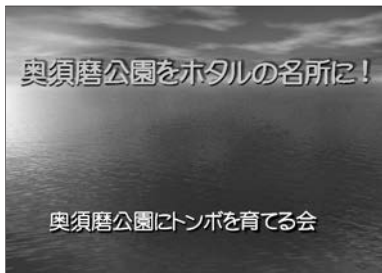
(Q1) この川では、ホタルがかなり減ったのをまた復活させているのですか。それとも、どこから移入されたものなののでしょうか。

(A1) 最初に野間川が出てきましたが、あのときに野間川で少し教えてもらったことと、神戸山手大学の吉岡先生に飼育方法を一から十まで教えていただいたことで、ホタルの幼虫を飼育することができました。これを1年がかりでやるのは大変な作業なのですが、最近は餌となる外来種のコモチカワツボが入ってきたためにホタルが光らないとか、カワニナが絶滅するといわれています。ですから、カワニナを餌にして1年かかってホタルの幼虫を飼育するのは大変な作業なのですが、最近では1000匹ぐらいのホタルの幼虫が育つようになりました。

(Q2) ゲンジボタルでしょうか、ヘイケボタルでしょうか。

(A2) 全てゲンジボタルです。一般的にホタルというのは全国的にゲンジボタルのことで、ヘイケボタルも光りますが小さいですね。

● 発表資料





ご指導いただいた先生の紹介

吉岡英二先生 神戸山手大学教授
 安井幸男先生 元・須磨海浜水族園
 武田敦之先生 神戸エコアップ研究会
 青山茂先生 元・須磨海浜水族園
 山下義和先生 三田市の平谷川に
 ホタルを定着

「毎日が活動日」

「この指たかれ」服部緑地都市緑化植物園

植物案内ボランティア（大阪府豊中市）

川上 健二



1. 活動の特徴

私たちはシニア自然大学の修了生で、大阪府の依頼を受けて平成12年から案内をしています。現在67名が活動していて、最年長は85歳です。最近は80歳近い方が多くなってきて、活動がちょっとしんどくなってきています。シニア自然大学の支援を受けていて、服部緑地の指定管理者グループと、ボランティア活動について覚書を交わしています。

開園日や天候にかかわらず、毎日誰かが植物案内をしています。会員は月2回の当番制で、自分のスケジュールに合わせて日にちを決めて活動しています。植物園から部屋を使用させてもらっていて、ここを拠点にしています。だから、雨の日も安心して活動できます。

それから、私たちは植物名板の整備やツバキの管理もしています。ツバキについては、名札を取り付けたり、枯れ木の挿し木・補植活動も行っています。また、シニア自然大学の受講生を教育実習として受け入れています。講師はわれわれ会員の中から希望者17名が務めています。講習内容は講師の自由で、マニュアルは何もありません。自分が旅行に行ったときの写真を見せて、受講生に話している方もいますし、いろいろです。

案内のマニュアルもありません。会員がめいめい自分で学習して、お客さんを案内しています。だから、新会員については1年間は案内しなくてもいいこととし、教育実習を再受講してもらったり、先輩の後をついて話を聞いたりしています。自分に自信が持てるまでは、案内してもらえません。

会員は、まず植物を楽しんで、楽しんだ気持ちをお客さんに伝えてほしいと考えています。私たちはボランティアですので、自分たちが楽しくないことをお客さんに話したり、知ったかぶりして植物の話をしたりしても仕方がなく、お客さんに楽しんでもらうことを考えています。

最近は案内だけでなく、イベントにも行ってお客さんを呼んでいます。自主イベントを年4回、園外研修を休園日に年2回実施しています。

平成12年から活動記録を取っています。延べ4850日、年間300日以上活動しています。活動人数は延べ16500人で、57000人のお客さんを案内しており、入園者の約1割を案内しています。それから、学習会を月1回開催し、植物について学習をしています。

平成13年度からの集計を見ると、植物園の入園者数は開園当初、年約3万人でした。最近はいろいろ活動していて、年間約4万人のお客さんが来られます。われわれが案内するのは1割ですから、約4000人です。それから、われわれの活動人数は年延べ約1000人で、毎月約110人が活動しています。

2. 活動状況

花の時期になると、お客さんが増えます。一方、天気予報の降水確率が高い日はお客さんが来ません。寒くなるとか、暑くなるという予報が出ると極端に来なくなります。

案内活動は10時半からと13時半からの2回ですが、お客さんに声を掛けられたら随時案内して

います。案内のメニューは 60 通り、会員の数だけあります。旗のある所に立って、お客さんが来られたら「案内しましょうか」と声を掛け、断る人もいるし、「案内してくれ」と言う人もいるし、最初から待っている人もいます。年間を通して見ると、5 月の花の時期が多くて、夏の暑いときは一気に減り、秋の紅葉の時期は増えます。

服部緑地植物園のツバキは近畿でもかなり有名な方で、ツバキは全部で 5000 種類ぐらいあるそうですが、当園には約 500 種類あり、大阪では一番多い方だと思います。全部で 1150 本のツバキが植わっています。

案内のパターンとしては、われわれの年代は夫婦連れで来ることが多く、夫婦連れの場合は奥さんの方に声を掛けます。すると、案内させてもらえます。ご主人に声を掛けると、案内通過していかれます。シニアのグループの同窓会やハイキングの会などもよくいらっしやいます。

小学生には、匂いのある樹木や変わった名前の樹木を案内したり、カタバミの 10 円磨きなどを体験させて、植物を五感で感じてもらうようにしています。

それから、服部緑地周辺の豊中や吹田は住宅地が多いので、子連れの若いお母さんがたくさん来られます。だから、若いお母さんへのアプローチを考えているのですが、お母さんに声を掛けるよりも、子どもにドングリ拾いや葉っぱ拾いなどで声を掛けて、そこからお母さんにつながるようにしています。

基本は植物案内ですので、イベントを行ってもまずは観察してもらってから、工作や体験をしてもらうようにしています。7 月にはアメンボの不思議、8 月にはセミの抜け殻調査、10 月には大阪府が行っているふれあい祭りに参加しています。

それから、「つばきを見て遊ぼう」というイベントを今年から始めました。ツバキのイベントはこれまでなかったのですが、植物園はツバキが有名なので初めて実施しました。植物園で採れたツバキの油を絞って、お客さんに配ったところ、大変喜ばれました。

1 月には造形展を開催しました。これは、自分たちが趣味で遊ぶようにして開いていて、30 点ほどが出展されます。

活動の楽しみは、天候に関係なく植物を観察できることです。雨の日は貸し切りで観察できます。それから、会員とコミュニケーションを取ることや、帰り際にお客さんに「楽しかった」という言葉を聞くことが私たちの楽しみです。

今後の課題は、会員の高齢化に伴う活動の低下です。会員の中では若手の 60 代が多くなっているので、研修と学習の体制が必要です。それから、最近のリピーターやスマホのお客さんが増えています。お客さんが知らないことを紹介しないとお客さんが楽しめないと思うので、その対応が必要です。それから、イベントについては PR の仕方が今後の課題です。

質疑応答

(Q1) ツバキ油の絞り方と利用について教えてください。

(A1) 10 月にツバキの実を取ってきて干して、実が割れたものを手でむき、種を出してまた乾燥させます。種を割ると黄色い実が出てくるのですが、渋も付いているのをそのまま、すりこぎで粉々にします。それを蒸し器で蒸します。ツバキの花油は水分が多いとなかなかきれいな油が採れないので、蒸し器で温めたものを絞り器で絞ると、きれいな油が出ました。この間のイベントでは、お客さん 50 人ぐらいにあげました。せっかくツバキの実が多いのに何もしていなかったのだから、イベントをさせてもらって、私もいい体験をすることができました。

● 発表資料


この指たかれ
植物案内ボランティア

この指たかれ
「毎日が活動日」

代表、川上健二




位置図



植物案内
椿案内

1. はじめに

- ・植物園の位置 豊中市寺内町1-13-2
- ・会の概要、シニア自然大学の修了生が平成12年に大会を依頼されて、ボランティアを募集して活動を開始している。
- 現在会員 約60名
- 年齢 最年長者85歳 近年80歳近い会員が多くなってきている。当初から活動をされている。
- シニア自然大学の支援を受けている。会員は「シニア自然大学」の在校生・卒業生
- 服部緑地指定管理者グループと服部緑地におけるボランティア活動について覚書を交わしている。



2. 活動内容と特徴

- ・園の開園日に雨天に関わらず毎日植物案内をしている。
- ・会員は月2回の当番を会員のスケジュールに合わせて日にちを決める
- ・活動拠点の控室を植物園より使用してもらっている。
- ・植物名板の整備とツバキの管理
- ツバキの名札、ツバキの枯れ木の挿し木・補植、活動
- シニア自然大学の受講生を教育実習として受け入れている。講師は会員の中から講師希望者15名が実習を行っている。講師間でも講習内容を決めていない。




案内のマニュアルはない、当初は準備されていたが、最近は各会員が自分で学習して作成、会として学習会で園内研修を行いレベルを維持している。先輩会員の補助をして案内の仕方を自分なりに作成する。

新会員については研修、1年間は案内をしなくてもよい。前段の教育実習を再度受講できる。

会員はまず花を楽しんで、楽しんだ気持ちをお客さんに伝える。

イベントの開催

自主イベント4回・園外研修2回(林園日に実施)



3. 毎日活動記録

平成12年より活動記録

活動日 延べ4850日、(年間300日以上)

活動人数 延べ約16.500人

案内者 延べ約 57.000人

入園者の約10%の案内

学習会の開催 奇数月・第三土曜日、偶数月・第三木曜日

連絡、植物について学習会



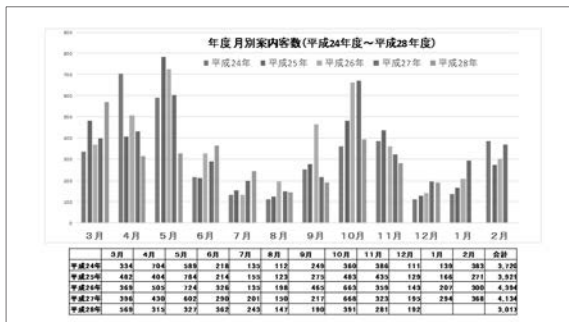
活動集計(平成13年度～平成28年度)

年度	入園者数		案内者数		案内回数		活動人数		活動日数		作業日数	
	延べ	平均	延べ	平均	延べ	平均	延べ	平均	延べ	平均	延べ	平均
平成13年度	33,242	87,261	2,426	6,303	12,431	301	8,830	3.6	362	208	421	312
平成14年度	32,450	86,761	2,290	5,922	12,473	301	8,830	3.6	362	208	421	312
平成15年度	30,665	79,430	2,270	5,941	13,461	339	9,272	3.641	424	263	513	324.80
平成16年度	33,311	86,889	2,320	6,171	13,771	351	9,272	3.7	362	208	421	312
平成17年度	35,874	91,424	2,606	6,833	14,251	362	9,951	4.1	400	236	486	328
平成18年度	31,421	82,838	2,020	5,338	12,211	308	8,238	3.2	362	208	421	312
平成19年度	35,793	93,600	2,320	6,171	13,771	351	9,272	3.7	362	208	421	312
平成20年度	34,481	89,146	2,188	5,712	13,211	338	8,308	4.1	362	208	421	312
平成21年度	38,481	98,127	2,596	6,833	14,251	362	9,951	4.2	362	208	421	312
平成22年度	38,981	99,486	2,676	7,076	14,751	373	10,201	3.9	362	208	421	312
平成23年度	32,263	82,531	2,220	5,826	12,211	308	8,238	3.3	362	208	421	312
平成24年度	40,800	104,451	2,920	7,611	15,211	373	10,201	3.9	362	208	421	312
平成25年度	44,723	113,196	3,236	8,511	16,211	408	11,201	4.2	362	208	421	312
平成26年度	42,100	107,226	3,136	8,146	15,211	373	10,201	4.0	362	208	421	312
計	5,106	13,018	359	975	1,719	479	3,126	3.6	362	208	421	312
平均	4,838	12,234	319	841	1,476	373	2,302	3.6	362	208	421	312
増減	4,876	12,320	327	851	1,476	373	2,302	3.6	362	208	421	312
増減	2,729	7,020	340	873	1,373	351	438	3.4	362	208	421	312
増減	2,114	5,047	242	616	1,171	301	526	3.2	362	208	421	312
増減	1,440	3,692	147	383	1,024	263	694	2.7	362	208	421	312
増減	2,196	5,608	192	492	1,276	321	750	3.3	362	208	421	312
増減	4,070	10,381	361	924	1,476	373	1,114	2.9	362	208	421	312
増減	3,498	8,799	291	751	1,276	321	921	2.9	362	208	421	312
増減	2,320	5,834	182	461	1,024	263	694	2.2	362	208	421	312
増減												
増減	33,224	84,917	2,372	6,171	12,211	308	8,238	3.3	362	208	421	312
増減	364,880	931,326	27,326	71,831	138,426	3,573	139,604	4.2	362	208	421	312

4. 活動状況

- ・案内者数の変動
- 花の時期になると増える。天気予報で降雨確率が悪い暑い、寒い予報で来園者は左右される。(しかし、案内)
- ・案内活動
- 基本は10時30分から、午後は13:30分から
- 上記の時間内であれば随時、巡回しながら声をかける
- 案内のメニューは60通りある。
- 旬の花の写真
- ツバキの時期には椿開花情報





5. 案内のパターン

- ・一般の入園者
- ・グループ シニアグループ、同窓会
- 植物の案内も大事だが、なるべく質問などと体験(匂う、触る)してもらい、話の輪を広げ、「楽しかった」を一番に案内を心掛けている。
- ・幼稚園・小学生の観察、小学校1年から5年生
- 匂い樹木、変わった名前の木、カタバミの10円みぎき、カエデのプロペラ体験
- 植物を五感(見る、触れる、匂う、食べる?)



親子の観察

緑地は豊中、吹田の住宅地に立地しており、周辺にマンションが多く、転勤族の若い親子が多くみられ、植物園は安全で幼児を遊ばす空間として人気がある。又園ではキッズルームを解放され、ママ友づくりの場として晴れ、雨の日も利用されている。



若いお母さんへのアプローチ
案内ではなく、どんぐり拾い、葉っぱの案内
トロバッチ、セミのバッチ
写真家(鳥や、植物写真)



6、イベント

我々の活動の基本は植物観察、観察⇨工作
子供向けに動く工作、トロなど

- 7月、アメンボの不思議観察 8月、セミの抜低学年対象の観察と工作
- 10月ふれあい祭りへの参加
緑地管理事務所の主催のイベントへの参加
- 11月、夫婦と親子で観察と工作
紅葉・木の葉拾い
幼児向けメニュー(オナモミダーツ、木の葉釣り)

「つばきを見て遊ぼう」

2月、椿の観察(ツバキを見て遊ぼう)

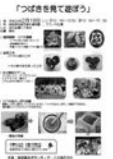

冬のイベントとしてツバキでは大阪では種類が多く、そのツバキを楽しんでもらう。

500種、(和種350種、洋種150種)1150本のツバキを有し、ツバキの開花時期は11月から4月ごろまた開花情報を掲示している。

ツバキ油絞り体験

1月、造形展の開催

会員の絵画・工作・書道・観察など作品を持ち寄って開催
参加者15~16名 作品数 30点






アメンボウの不思議
セミの抜け殻調査
ふれあい祭り
夫婦と親子で観察と工作
造形展



7、活動の楽しみ

- 定点観察
年間を通じて園内を巡回することで季節の移り変わり、植物、野鳥、昆虫などに出会う楽しみ
- 雨天に関係なく植物を観察できる
雨の日は貸切で観察できる
- 会員間のコミュニケーション
お客さんを待っている間に園内植物情報交換、園内を観察で歩くことで健康に
- 控室(冷暖房完備)でお土産づくり、工作の準備
セミのバッチ、どんぐりバッチ、ナギの実、工作材料の加工
- お客さんとお友達に
リピーター、「終わりに楽しかった。」の言葉を聞くこと
セミのバッチなどお子さんにあげると喜ばれる。

8、会の今後の課題

- 会員の高齢化に伴う活動の低下
- 若い年よりの会員、研修と学習の体制
80代は高齢者、70代は現役、60代は若手
- リピーター・スマホーのお客さんへの対応
- イベントへのPRの仕方




侘助椿・玉之浦・岩根紋り



昭和侘助 白侘助 一子侘助 漢輪侘助
種花助 侘助助 歌幸堂花助 黒花助



種花助 侘助助 歌幸堂花助 黒花助

「府営公園内で里山保全活動」

蜻蛉池公園 夢の森づくり隊（大阪府岸和田市）

小林 伸一



1. ファミリーメイトの活動

蜻蛉池公園は、大阪府南部の岸和田市のほぼ中央にあり、和泉山脈などの山に囲まれた公園です。公園全体は 60ha ほどあるのですが、そのうち 10 分の 1 ほどの 7.1ha が「ふれあいの森」として里山が保存され、遊具も何も置かれていません。ここが私たちの活動場所になります。昨年 4 月には、新たに 8000m²が追加されました。

私たちの活動の目的は、子どもたちに里山の自然と触れ合う場を提供することと、自分たち会員の夢を実現することです。活動内容は、一般的な里山保全活動やイベントの実施、そして「やごっぴあ」という広報誌を月 1 回発行しています。明日で 186 号になります。

子どもたちを集めるために、「ファミリーメイト」というイベントを行っています。ファミリーなので、家族と一緒に小さいときから中学校に入るまでずっと参加してほしいという願いを込めています。5 月から 2 月まで、年 6 回やっています。

1 回目は 5 月で、サツマイモの苗の植え付けを行っています。「レンゲのじゅうたんに寝っ転がれば、ウグイスの声と・・・」という歌詞の隊歌を持っていて、これを毎回歌っています。

2 回目は 6 月で、2 月に植えたジャガイモを掘り起こし、それを料理しています。森で遊んだりもしています。

3 回目は 7 月で、竹ヒゴで虫かごを作ります。腐葉土をたくさん作っていて、そこに出てくるカブトムシを掘り出して、虫かごに入れて持ち帰るという企画もしています。

行事と並行して食育も毎回やっています。竹パンを焼いたときは、子どもが自らパンの生地を竹に巻き、自分の責任で焼いていて、子どもの責任感を育もうとしています

4 回目は 8 月で、「ふれあいの森で遊ぼう」をテーマに、いろいろな竹細工を作ったり、昼には流しそうめんをしたりしています。

5 回目は 11 月で、5 月に植えたサツマイモを掘り起こしてイモ料理をします。

6 回目は 2 月で、ジャガイモの植え付けをします。種イモを二つに割って、草木灰を付けて丁寧に一つ一つ植え、その後で水をやります。

その後、バームクーヘン作りをします。2m ほどの孟宗竹を切り出して、その上にホットケーキの生地を何度も付けては焼いてを繰り返すと、大きなバームクーヘンが出来上がります。

2. 里山保全活動等

それ以外に、里山保全活動もしています。初期のビオトープは、秀治郎池という南北 20m、東西 30m ほどの池に、木杭と土嚢、バンセン、孟宗竹を使って栈橋を手作りしました。

その横に井戸も掘りました。上総掘りという昔ながらの掘り方です。4m ほどで水が出てきました。それから、池の泥を土のうにするのですが、泥をさらったところ、絶滅危惧種であるイチョウウキゴケが出てきました。これを会員の一人が一生懸命研究して、生物学会に発表しました。

『ふれあいの森』は 2007 年にオープンしたのですが、その時業者が入ってビオトープの安全性

を保つ形に機械で整備しました。池の南北にはアジサイを 200 株ほど植栽しました。さらった池の泥は、堤を補強するのに使っています。現在では、夏にはザリガニ釣りが盛んで、冬にはコナラの落ち葉がたまとへドロになるので、これをさらうことが大きな作業です。

孟宗竹の竹やぶがかなり広く、かなり密集しているので、手鋸で伐採してためておきます。それをチップヤードへ持っていき、チップにしてもらって、拡幅した遊歩道に 10cm ほどの厚さで敷きました。柔らかい遊歩道になり、気持ちよく散策できます。それから、同じく間伐の一つとして、4 月上旬にタケノコ掘りをしています。これは公園事務所との共催です。それ以外は全て独自の行事として行っています。

畑には野ウサギやガマガエル、カメなどがやって来ます。それから、コゲラやキセキレイ、ツグミ、イカルのような小鳥がたくさんいます。2012 年には、オオタカの若鳥がエノキの木に 2 時間ほど滞在してくれて、私たちはずっと観察していました。

初期の頃は、ふれあいの森全体をドングリで埋めてしまおうと考えていました。アベマキが有名な和泉市の惣ヶ池公園へ拾いに行き、アベマキのドングリを、5000 個ほど持ってきて、それをペットボトルにミズゴケを入れて育てて、苗を 200 本ほど園内のあちこちに植えました。ドングリがなるまでに 8 年かかりました。現在は 12~13m の樹高になっています。

桜も 12 種類 27 本を植えました。ところが、草勢に負けてしまって半分ほどしか生き残っていません。

昨年 5 月、子どもたちを集めてクヌギを植えました。苗は自分たちの手作りです。

園内の何もない周遊路に自生していたスイセンの球根を掘るイベントを 2 年に分けて行い、球根を干して周囲に植えて立派なスイセンロードも出来上がりました。

子どもたちの笑顔が、私たちの活動のエネルギーです。お母さん方の助けも大いに助かっています。他団体との交流もしています。昨年は国土交通大臣から感謝状も頂きました。

今後の大きな課題は、高齢化と会員不足です。

質疑応答

(Q1) 珍しいウキゴケが復活したという話がありましたが、今でも繁殖などはできているのでしょうか。

(A1) 今でも春から夏にかけて、たくさん出てきています。

(Q2) イベントのとき以外に、一般のお客さんはたくさん来られているのでしょうか。

(A2) 流しそうめんが一番多くて、60 人ほど来られます。一般のお客さんはいないときもありますし、特に冬場などはいないことがあります。

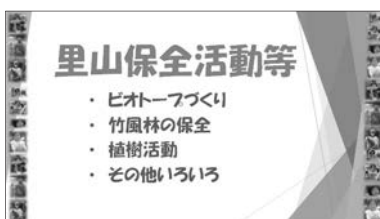
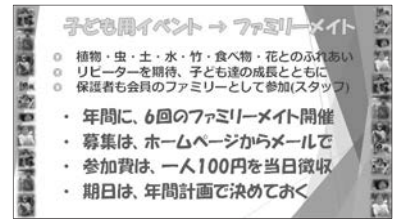
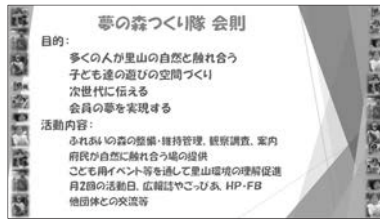
(Q3) 普段活動していないときでも、一般の方が池などを自由に利用されているのですか。

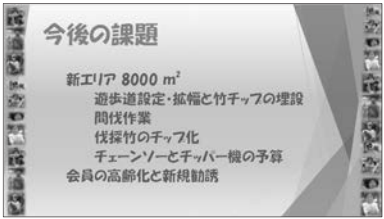
(A3) はい。公園はオープンにされていて、24 時間いつでも自由に入れます。

(Q4) トラブルなどはありませんか。

(A4) 全くありませんが、私たちはどんなイベントをしても、その日のうちに元通りに戻してから帰るので、準備と後片付けがちょっと大変です。

● 発表資料





講 評

田中 晃代

大阪産大建築・環境デザイン学科の川口研究室の発表ですが、地域にたくさん資源があると思うので、まずその資源を知ってもらって、さらにそこに来ていただいて、協働して活動するという流れがあると思います。その中で、いかに地域資源を知ってもらえるかという工夫をされていました。マップ作りを通して、人と地域と場のつながりをデザインしたいということで、聞いていると学会発表に来ているのかなと錯覚するぐらい、素晴らしいプレゼンをしてくださったと思います。こういう若い学生さんの力があるわけですから、どんどん地域に出て行っていただき活動していただきたいと思います。

それから、奥須磨公園にトンボを育てる会の発表では、野間川のホタルを視察に行くなどして日々勉強されたということで、その知識を自分たちだけで蓄積するのではなく、実践活動をしながら地域に還元しているところが素晴らしいと思います。須磨学園や自治会や神戸山手大学、建設局、ボーイスカウト、水族園などいろいろな方から協力していただいているのは、河合さんのお人柄も十分あると思うのですが、それだけではないかもしれないので、その秘訣を交流会のときに聞けたらと思います。

さらに、服部緑地の川上さんの活動です。私の専門はまちづくりなのですが、参加型まちづくりのノウハウでも十分生かせるような話がありました。例えば案内の仕方でも、まずは奥様に声を掛けるとか、若いお母さん方に直接声を掛けるのは敬遠されるので、子どもさんを介して話し掛けるとか、商品を販売する場合と同じで、接客の仕事はノウハウの蓄積が必要なので、そういう工夫がたくさんお話の中に出てきたことは素晴らしいことだと思っています。

最後の蜻蛉池公園の小林さんのお話なのですが、これも 16 年間活動を続けてこられたというのは、並大抵のことではなかったと思います。その話をもう少し聞かせていただきたいのと、ファミリーメイトというお話がありました。隊員とファミリーメイトの関係が、長く続いている秘訣かなと感じたのですが、年 8 回ものイベントを実施されているので、もう少し詳しくお伺いしたいと思っています。

今回の 4 団体のお話を伺うと、共通する課題に担い手の高齢化ということを言われていました。活動の担い手が高齢化するから活動が低下するというお話があったのですが、お話を聞いている分では高齢化が全く問題になっていませんでした。というのは、年齢を重ねるごとに人に対するきめ細かな配慮やおもてなしがあり、酸いも甘いも経験されていると思うので、その経験知が活動の質に十分生かされていることを感じました。高齢化とは本当にデメリットなのかということも考えさせられました。

「吹田くわいって何？」

吹田くわい保存会（大阪府吹田市）

岡本 紀夫



1. 吹田くわいの生態

「吹田くわいとは何？」と小学生から尋ねられて、どう答えたらいいのか、最初は迷っていたのですが、「実際に見て食べてくれたらよく分かるよ」と話しています。吹田くわいは、根の先にできる塊茎を収穫します。花は、3枚の花びらの真ん中が緑になっているのが雌花で、中心が黄色っぽいのが雄花です。株に近いのが雌花で、先に行くほど雄花が咲いています。自家受粉もします。雌花が散った後に実ができます。1個の実に100個ほどの種が含まれていて、秋になるとそれが弾けてぱらぱらと散ってしまいます。ただし、田んぼでくわいを作ると、田んぼに流れてしまっても迷惑なので、ちょっと要注意です。

2. 吹田くわいの歴史と文化

くわいの種類には吹田くわい、青くわい、白くわいがあって、一番小粒なのが吹田くわいです。「青くわい」「白くわい」は中国原産で、日本に渡ってきました。白くわいが先に伝わって、青くわいが後を追いつけるようにして日本に入ってきました。

一方、吹田くわいは日本原産の植物です。ですから、青くわい、白くわい、吹田くわいと表現すると誤解を生んでしまいます。くわいというのは、世界中を探しても中国原産と日本原産の2種類しかないのです。一般的には、他の呼び方もいろいろあるので誤解する可能性があります。基本的に普通のくわいは *sinensis*（中国に産する）、吹田くわいは *suitensis*（吹田に産する）といい、どんなに最新の辞書や図鑑を見ても、この2種類しかありません。

だから、「吹田くわいって何？」というタイトルを付けているのです。つまり、「くわいといったらお正月に食べるものやな」というふうに思われる方もいるでしょうが、原産地が2種類だということをはなかなかきちんと受け止められていない場合が多いので、今日はそれを皆さんに知っていただこうと思います。

中国に産する *sinensis*、吹田に産する *suitensis* は、ともにオモダカ科の植物です。これまでの研究では、吹田くわいはオモダカが進化してできたものであるというふうに保存会が出した本でも書いているのですが、現在の研究はそうではなくて、いつから作られたのかを疑問視している人が何人もいます。これをどうやって解消していくかということで、現在いろいろな方が研究されています。

吹田の緑は、昭和31年から都市化の進行に伴ってだんだん少なくなっています。その中で、私と同じ年である平野農園の平野紘一さんは今も吹田くわいを生産していて、人々のために幸せと安全をつくるため、いわゆる無農薬野菜の栽培を進めておられます。

吹田市のイメージキャラクターである「すいたん」も、吹田くわいがモチーフになっています。

質疑応答

(Q1) 普通のくわいと吹田くわいが全く別物というのであれば、皆さん吹田くわいとはどういうものか食べてみたいと思うのですが、流通はいろいろなところに行っているのでしょうか。

(A1) 毎年11月の終わりか12月の日曜日に、泉殿宮という神社の境内をお借りして、大阪学院大学の学生さんが実行委員となり「吹田くわい祭り」を行っています。

実はその会合を明日、学院大学で、吹田くわい交流会という形で開き、吹田くわい祭りをどういう取り組みにしていこうかというのを発表させていただきます。

吹田くわいが欲しいという方は、連絡いただければいろいろな工夫をします。

(司会) 吹田くわいはなかなか手に入りそうな感じではないですが、ご興味のある方は、直接岡本様に連絡されるか、その神社のイベントのときにお越しいただければと思います。

そのほか

- ・タネイモの注文、どの店舗で吹田くわいを食べられるかなどの問い合わせは
「吹田くわい保存会」(FAX/TEL06-6877-5738)
- ・吹田くわい(食用)の注文は生産者の「平野農園」まで。

● 発表資料

『吹田くわい』って なに？

「第5回みどりの交流広場」

2017-2-25 花博記念協会
 発表：吹田くわい保存会 岡本紀夫
 パワーポイント作成 高島 耕一郎
 近藤 信昌
 ポスターセッション 松田 正

内容：A「吹田くわい」の歴史と文化
 B「吹田くわい」保存会の活動

A 吹田くわいの歴史と文化



- 資料提供：故 北村 英一
- 資料編集：高島 耕一郎
- 近藤 信昌

～吹田くわいの生態～

全体	花	葉
----	---	---



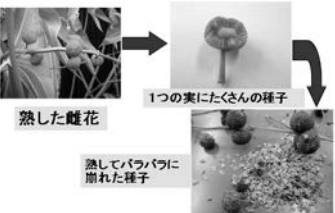
雄花・雌花



吹田くわいの花(雄花) (雌花)

- 基本的には雄花(黄色)、雌花(緑色)は時期を少しずらして咲く。花の咲く順序は順次雌花が先に咲き始め、雌花の花びらが縮んでくると、花茎が上に伸びそこに雄花が次々咲く。花期は6-7月頃の初夏

雌花から種子へ



熟した雌花 → 1つの実にたくさんの種子 → 熟してパパラパに割れた種子

比較



出典：「クワイの特性分類調査における基準品種の特性」大阪府立食とみどりの総合技術センター

クワイの種類

- 普通クワイ → 中国から渡来 シロクワイ・アオクワイ
- スイタクワイ (日本原産)

参考資料
 ・クロクワイ (カヤツリグサ科)、オオクワグワイ

吹田くわい等の学名

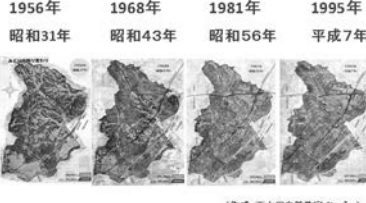
おもだか
Sagittaria trifolia L. var. *typica* Makino
 並通くわい
Sagittaria trifolia L. var. *sinensis* Makino
 吹田くわい
Sagittaria trifolia L. var. *typica* Makino forma *suitensis* Makino
吹田に産する

吹田くわいの生い立ち

- オモダカは、東アジアを中心に生育。日本では、北海道から九州まで、全国に分布している。
- スイタクワイは、日本のオモダカが、何千年もの間、肥沃な土地で繁殖をくり返し、進化してきた植物。
- 普通クワイが変化したものではなく、オモダカの進化したものである。

吹田の緑の移り変わり

1956年 昭和31年 1968年 昭和43年 1981年 昭和56年 1995年 平成7年

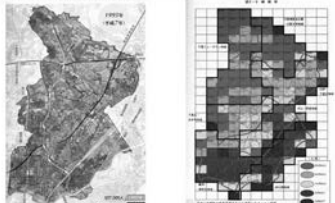


(作成：西山田自認教室メンバー)

緑被率 22.4%

調査：1993年(平成5年)

●千聖ニュータウン40%超える所も
 ●市南部では、5%以下の所も



現在も栽培している吹田くわい畑(平野農園)



吹田くわいの歴史

- 豊臣秀吉・・・1586年伏見桃山城に居った頃、摂津の鳥飼産のスイタクワイを取り寄せ、東寺の御土居に植える。「東寺くわい」と言われる。
(巨 節；「吹田志稿」)
- 「天保明細帳」...京都御所への献上。毎年春に行なう。

昔から日本は沼や湿地帯が多く水生植物のオモダカが武士の家紋に多く使われた



吹田くわいを掘る道具



鎌 桶音

お土産用包装



吹田くわいの嚢形包装

B 保存会の活動

はじめり 1

- スイタクワイは、最後の除草剤の多用によって、殆ど絶滅させられ、幻の野菜となった。(昭和30年代)
- 昭和38年頃、木下ミチ子さん(下新田在住)が、自田で発見。金子 文兵衛先生(関西大学教授)に相談し、スイタクワイと確認。夏 節(ウタリ ミサオ・大阪市立大教授)と共に、保存運動の呼びかけをされた。
- 保存会を提唱されたのは、中川 文夫氏(当時の市役所 市長室長)で、道家 操彦、橋本 隆次、北村 英一、金尾 エツ、森野 クチ等の人たちが集まって、昭和60年に「吹田くわい保存会」を結成し、吹田くわいの栽培、播種、種子の配布、広報などの活動を展開してきた。

保存運動の始まりと学術研究

はじめり 2



金子文兵衛先生 木下ミチ子さん 日本学博士

事例発表⑩

「マルシェを通した都市と農村のつながりづくり」

大阪ぐりぐりマルシェ（大阪府大阪市）

山内 美陽子



1. 大阪ぐりぐりマルシェの紹介

大阪ぐりぐりマルシェは、大阪市中央区の本町駅と心斎橋駅の間の御堂筋沿いにある難波神社で、4年前から開いています。毎月第2土曜日に開いていて、初めはお客さんが少なかったのですが、ここ2年ほどはそこそこ来ていただいている、いろいろな出店者の売上げが結構立っていると思っていますし、いろいろな方に喜ばれているマーケットになっていると思っています。

「ぐりぐり」というのは Green Good Link（緑の良いつながり）という意味です。ロゴマークのとおり、循環するという意味もあって、「ぐるぐるマルシェ」と名前を間違えている人もいますが、「人・緑・農・食がつながるマーケット」ということで、ふわっとした感じでいろいろな人がつながるマーケットにしていきたいと思っています。

難波神社の外壁にかなり大きな横断幕を付けて、毎月1回開いています。境内には30ブースぐらいの出店者がテントを持ってきたり、こちらが少し用意したりして、それぞれがそれぞれの形で出店しています。

出店者の構成は、大阪をはじめ和歌山、奈良などの関西の農家を中心に、そういった農家や知り合いの農家の野菜を扱っていたり、なるべく地産地消の野菜や米などを使ったお菓子を出したりしています。あとは、いろいろなみそや総菜、ジュース、ジャム、養蜂農家から仕入れた蜂蜜などの加工品を出してくださる方、その場で熱々の料理を提供してくださる料理人の方、雑貨関係の方やマッサージの方、アロマなど植物を生かしたサービスを提供する方などで構成されています。

ぐりぐりマルシェの特徴は、ただ出店場所を貸すだけではなく、いろいろなコラボレーションを誘発する場であることです。例えば農家×加工者の出会いの場です。勝手に仲良くなっていく人もいますが、こちらでお膳立てしてブースを隣同士にしたり、同じような地域から来ていたら話も弾みますし、親近感も湧くので、そういった方同士のマッチングやコラボレーションをなるべくしています。マルシェは商品発表の場でもあり、加工者や農家自身も加工品を作り始めているので、そういう方の商品を、完成形ではなく試作段階でもいろいろな人に食べていただいて意見を聞いたり、そういうふうにブラッシュアップして次の月にいい商品が生まれるようにしています。

それから、一般の方だけでなく、レストランの方なども訪れるので、そういう方との引き合わせなどもなるべくしていますし、出店しているレストランと農家のコラボレーションが起こるようにもしています。

そして、出店者同士の情報交換の場でもあります。皆さんものづくりへの思いがとても強く、とにかくいいものをつくりたいと思っている方だけに、出店していただいているので、農産物の加工方法や販売方法についてものすごく勉強熱心で、自然と話が弾みます。いい情報はみんなで共有できるように、その場でいろいろな話が起るような形になるべくしようとしています。境内ではセミナーやワークショップなども開催しています。

2. コンセプト

コンセプトは、大地になるべく負担を掛けない「自然に寄り添う農法」で作られた農産物や加工品を販売することです。無農薬の野菜などとあまり言い切ってしまうと、そうではない人を排除してしまいます。ほとんどの方は農薬を少なくしようと何かしら努力したり、環境に負荷を掛けない方法をいろいろ考えたりしているので、そういう方も入れて「自然に寄り添う農法」とし、かなり厳格にこだわっている方からそうでない方まで、ゆるく来ていただいています。

それから、旬を大事にした地元野菜の販売です。地元農家に出店していただいています。

それから、農業（1次産業）を応援する地場産品の販売です。ぐりぐりマルシェのコンセプトとして農業を応援することを一番に掲げているので、そういう気持ちがある方の出店を受け入れ、来場者にもそういった気持ちを徐々に持っていただくようにしています。

それから、加工者や料理人によるワークショップやカフェをいろいろと行うことも一つの売りになっています。

境内ではいろいろなことをしています。紫イモやホウレンソウなどの野菜のパウダーをいろいろと販売していたり、そのパウダーを使ったお菓子を加工者が作って販売したり、ワークショップも開いたりしています。買いに来られる方の中にはレシピを知りたい方も多いため、みそ作りをしたり、カフェで料理教室をしたりして、素材を買っていただけるようにしています。

3. ライフワークとしてのマルシェ

ぐりぐりマルシェのもう一つの特徴は、「ライフワークとしてのマルシェ」です。オーガニックマルシェのように、環境を良くしようということを啓蒙するようなマルシェも東京などにはありますが、そこまで行かないようにしています。それから、安さなどをあまりに重視しても、交流のないマルシェは違うなと思っているので、日常的に当たり前に来ていただき、いろいろな表現ができるマルシェ、出店する方も来場する方も当たり前を活用してもらえるマルシェになることを考えています。

農や緑とのいろいろな関わりがある中で、私自身も自宅で屋上田畑をやっているのですが、まちなかの農との関わりという点ではかなり意味があるかなと思っています。難波神社周辺は非常に住宅密集地で、高感度エリアですので、非常にレストランからの引き合いも多くなっていて、農家とレストランとのマッチングという点では可能性が非常にあると思っています。毎月開いているので、もし関心がありましたら、お越しくください。

質疑応答

（講師） 最初に難波神社にしようと思ったのはどういうきっかけですか。

（A1） もともと、大阪で最も有名な淀屋橋マルシェがあり、6年ほど前にそこを手伝っていました。しかし、あまりに慌ただしく、農家との交流が少なかったため、自分でマルシェを開きたいと思い、動き始めました。その中で、いろいろな制約が少なく、ゆったりした気持ちになれることに加え、昔から神社や寺ではそういう市が起こっていたということを思い出し、いろいろ考えたところ、難波神社とのいい出会いもあって、開くことになりました。

● 発表資料

大阪ぐりぐりマルシェ @難波神社



大阪ぐりぐりマルシェ

毎月第二土曜日
@難波神社

Green Good Link! =ぐりぐり
人・緑・農・食がつながる
マーケット

○約30ブース
○農家さん、お菓子や味噌、惣菜など、料理人(レストラン)、布・雑貨などで構成
○農家×加工者の出合いの場
○商品の発表の場 テスト販売
○レストランなどとの出合いの場
○出店者同士の情報交換の場
○セミナーやワークショップの開催



大阪ぐりぐりマルシェの内容

- ・大地になるべく負担をかけない、自然によりそった農法でつくられた農産物や加工品の販売
- ・旬を大事にした地元野菜の販売
- ・農業／一次産業を応援する地場産品の販売
- ・加工者や料理人によるワークショップやカフェ



大阪ぐりぐりマルシェ@難波神社 「ライフワークとしてのマルシェ」

ライフワークとは？

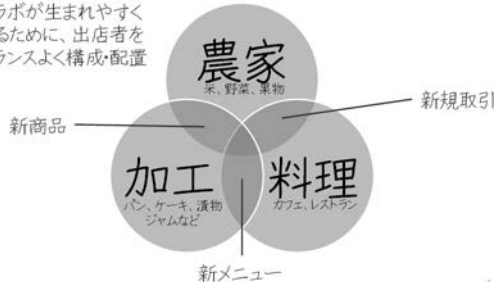
- かつて神社は祭や市で季節ごと定期的に必ず人があつた
- 祭の中で人や自然との調和の大切さを学び、その絆を紡いできた
- それが生活・人生(ライフ)の一部として繰り返しされてきた(ワーク)
- 社会性と経済性の中間の位置づけがライフワーク

日常生活 — ライフワーク

社会性 ————— 経済性

コラボレーション指向マルシェ (6次産業化)

コラボが生まれやすくするために、出店者をバランスよく構成・配置



21世紀食農と環境の時代のライフスタイル

都市	郊外	田園	山村
コンパニオンアニマル パッケージ バケツ種 産直野菜 農産物 スローフード 公園ボランティア 学校農園 市民農園 無入スタンド 飲赤リウオウチン	市民農園 農業公園 園芸福祉 園芸療法 園芸セラピー	グリーンツーリズム 里山保全活動 菜園付住宅 田園居住 田舎暮らし	森ツリーリズム 多自然居住 棚田保全活動 地産地消 たんぼの学校 田舎暮らし

さまざまな「農」との関係(TAMAらいふ21 進士 1993年)/精農、楽農、援農、遊農、学農

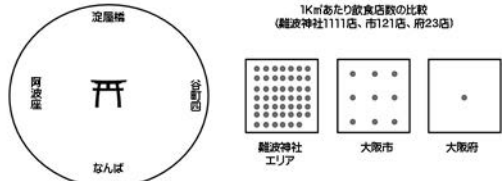
市民 学農 遊農 援農 楽農 精農 農民

全国民総第5種兼業農家化(月刊JA 進士 2002年)

コラボレーション、パートナーシップ、ボランティア、ファシリテーター、ワークショップ、……

難波神社は高密度・高感度エリア

- ・徒歩圏内(1.5Km)に飲食店が1万店(ぐるなび掲載店)
- ・このエリアの飲食店の密度は、大阪府の48倍、大阪市の9倍
- ・大阪市内のオーガニック飲食店の半数以上がこのエリアに





講 評

田中 晃代

まず、吹田くわいなのですが、実は私も吹田市民で、くわいのことは存じ上げています。多分、吹田では市民環境会議や、岸部地区の自治会、大阪学院大学など連携する団体・組織がたくさんあって、そういう環境の下で伝統文化を守っていらっしゃるのかなという気がしています。くわいの種類が2種類あることは知らなかったのですが、本当にありがとうございます。そういう中で、伝統文化を守り伝えていらっしゃるということで、大学生や小中高生も交えてくわいを栽培しているような事例も吹田にはたくさんあります。その中で、息の長い伝承活動をされていると思います。

それから、ぐりぐりマルシェは、私も Facebook を実際にやっており、ぐりぐりマルシェのご案内を拝見します。以前から素晴らしい活動だとずっと思っていました。お話の中で、厳格なオーガニックマルシェなどでは人と人の交流をなかなかつなげられないので、それよりもちょっと緩やかな目的意識を持って、ライフワークとしてのマルシェを目指しているとおっしゃったのは、人と人をつなげるときにはあまり厳格なルールや目的を持ってしまうと、なかなかつながらないという示唆を含んでいると感じています。その点で、今回たくさんの人と人のつながりがいろいろな団体で出てきていたので、そのノウハウのようなものもたくさん発表していただいたという気がしています。

今日は素晴らしい発表をどうもありがとうございました。本当に楽しい時間で、あっという間に過ぎてしまいました。先ほど始まったばかりだと思うぐらい、楽しいお話を聞かせていただきました。

私はまちづくりが専門なのですが、最近「知の創出」がよく言われています。「知」は知識の知なのですが、経験した知識と学んだ知識という全く違う知がぶつかり合って、新しいアイデアが生まれ、そのアイデアが地域のいろいろな課題を解決していく一つの手段・手法として取り入れられるという動きがどんどん広がっています。

例えば、人と人がつながっていく「つながりカフェ」であるとか、フューチャーセンターやハッカソンなどを30~40代の方がどんどん開催して、お互いが知識をぶつけ合って新しいアイデアをどんどん生み出す動きになっています。そこでは、行政の方や市民の方、大学の先生が肩書をなしにして、お互いにアイデアを出し合う「場」をつくっていらっしゃいます。

今日、お話を伺っていると、最後のぐりぐりマルシェの方もおっしゃっていましたが、「私はオーガニックをやっているんだ」というような肩肘張った強い目的を持つよりも、どちらかというとも誰かが共感できるようなルールを打ち立てて、ゆるやかにしなやかに人と人がつながっていく指標のようなものをご提示いただいたのかなと思います。そういう環境の下であれば、新しいアイデアや知識がどんどん生み出されていくという気がしました。そういう中で、皆さんの活動を聞いていると、ゆるやかな人と人のつながりをいかに活動の中でつくっていくかということで、たくさんアイデアを頂いた気がしています。

私も講評をしています、実は皆さんに教えていただいたことがたくさんありましたので、伺ったお話をもち帰って、活動の現場に生かせたらと思っています。今日は本当にありがとうございました。

ポスター展示

第5回みどりの交流広場

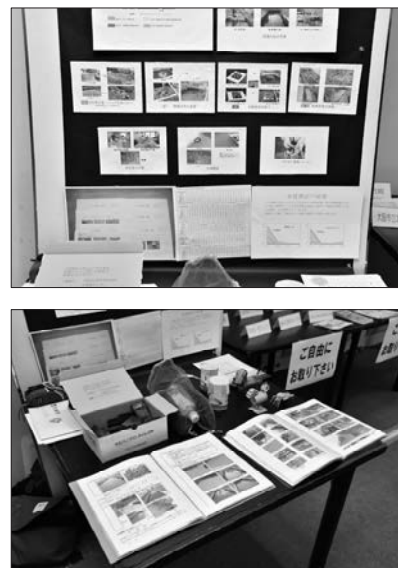
チーム竹姫
国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園
学校法人谷岡学園 大阪商業大学
大阪市立北田辺小学校
大阪産業大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 川口研究室
奥須磨公園にトンボを育てる会
「この指たかれ」服部緑地都市緑化植物園 植物案内ボランティア
蜻蛉池公園 夢の森づくり隊
吹田くわい保存会
大阪ぐりぐりマルシェ
豊中緑化リーダー会
泉大津緑化ボランティア協議会
秋篠川源流を愛し育てる会
中区まちづくり咲ークル「花輪（かりん）」
春日山原始林を未来へつなぐ会
一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金
かこの里山村
淡路島マンモス
すみれ・花フレンズ
中京・花とみどりの会

《 ポスター展示・団体紹介 》

①チーム竹姫（大阪府大東市）

【新堀川の水質浄化効果と記録写真展示】

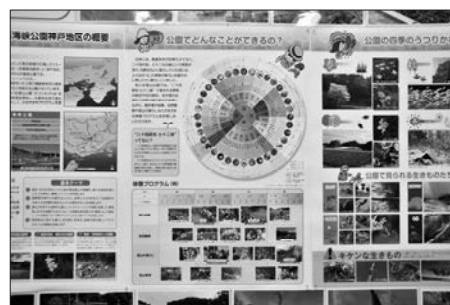
チーム竹姫は大東環境みどり会、大阪産業大学、大東市役所環境課ほか地元の企業などの有志によるグループです。大東市役所の横にある水路（新堀川）の水質浄化を4年前から取り組み、納豆菌付着の竹炭、太陽光発電を利用した曝気装置と水循環装置、水耕栽培を利用し水質浄化と美観を兼ねた装置を開発するなど、できる限り安価で普遍的な浄化実験を目指しています。期待される効果としては多くの市民の目に触れる場所で実施することにより、ゴミ投棄などを減らし川に親しみを持ってもらうことです。



②国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園（兵庫県神戸市）

【あいな里山公園について】

あいな里山公園は、地域の歴史文化を含む里山環境を再生し、自然との共生を中心とした日本の伝統的な自然観の発信拠点となることを目指した公園です。また、市民団体との協働による公園整備・運営も特徴の一つです。園内には希少な動植物が多く生息・生育しており、生物多様性保全の拠点でもあります。利用者には、時間の止まったような「あいなじかん」の中で季節の移り変わりに応じた体験プログラムを提供しています。



③学校法人谷岡学園 大阪商業大学（大阪府東大阪市）

【大阪商業大学新キャンパス校舎完成パース図、大学資料他】

計画地は、河内小阪駅前周辺に位置し、商業（商店会）やマンション住宅等が立地し、多くの通行人が通る場所にあります。この付近は比較的緑地帯が少なく、みどり豊かな空間を新たに形成することで、地域住民や府民の憩いの場を提供するとともに、地域での緑化活動の促進を目指します。

具体的には、近隣企業、行政機関、自治会、商店会等及び当学園の大阪商業大学高等学校、同附属幼稚園が合同で清掃・美化活動に取り組むことを想定しています。

また、この地域では市民・学校・各種団体などが協力し、「菜の花」を咲かせる運動が毎年行われていることから、本学においても緑地

帯に「郷土の庭」エリアを設け、「菜の花」を咲かせることにより、地域の緑化活動に協力するとともに、緑化推進に係る説明会を行うなど、相互に連携できる体制づくりを検討しています。



④大阪市立北田辺小学校（大阪府大阪市）

【北田辺小学校のビオトープの様子、活用の様子】

大阪市立北田辺小学校では、今から2年前、5年生が中心になって、荒れていたビオトープの改修に取り組みました。花壇や池の整備、田圃づくりなどの作業を分担し、1年生から6年生の児童全員が参加しての大改修となりました。新しいビオトープには、児童から名前を募集し、「なでしこの森」と名付けられました。今の6年生が作業を受けつぎ、より良くなるように、生き物のすみかになるものを設置したり、池のアオミドロを除去したりと、環境整備を続けています。ビオトープがある学校でよかったと思えるような、自然豊かな環境をこれから

大切に引き継いでいけるように頑張っています。



⑤大阪産業大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科

川口研究室（大阪府大東市）

【研究室で取り組む地域協働活動】

ランドスケープ・プランニングを専門とする5年目の研究室です。私達は、目の前に広がる風景を成り立たせている「つながり」を様々な視点（自然、コミュニティ、生業、法制度、歴史文化等々）から読み取り、生物を含むみんなが将来に向かい安心して幸せに暮せる場所、地域をつくっていくため、「今・ここ」がどうあるべきかをそこに係わる人と計画し、実行することをモットーにしています。大学の地元である生駒山西麓地域を主な研究フィールドに、地域資源を活かすための政策提言や地域協働プロジェクトを実践しながら研究しています。 <http://www.masa-lab.info/>



⑥奥須磨公園にトンボを育てる会（兵庫県神戸市）

【ホタル復活定着活動】

神戸六甲山系の西に位置する横尾山の水脈を受ける奥須磨公園は、昭和44年に開設され自然が豊かで7つの池と小川があって、広さは甲子園球場の約5倍の20ヘクタールあります。かつて、トンボやチョウなど多くの昆虫が生息し、ホタルは無数に乱舞していましたが、昭和50年頃には都市化が進み、次第にトンボやホタルが減少。今、ゲンジボタルの幼虫を1年かけて育て、小川に放流し、復活定着活動を展開しています。



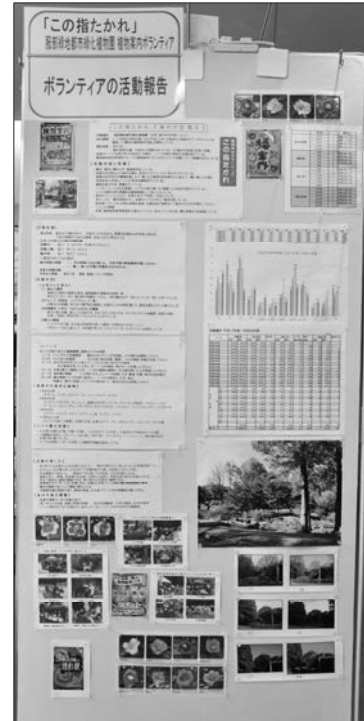
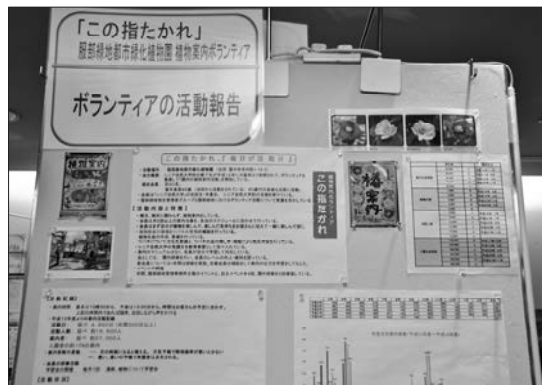
⑦「この指たかれ」 服部緑地都市緑化植物園

植物案内ボランティア (大阪府豊中市)

【団体の活動報告】

服部緑地都市緑化植物園内の植物案内ボランティア、平成12年より16年間、活動日数約4,850日、活動人数約16,500人、案内者数57,700人で、植物案内、ツバキの管理、植物名板などの整備を行って、特に植物案内は開園日全日当番2名以上で来園者の案内活動、また小学校・幼稚園、シニア団体の案内を行っています。当園は椿では大阪では品種・本数も多く冬の植物観察の人気スポットです。活動の近況と16年間の実績を紹介し

ます。



⑧蜻蛉池公園 夢の森づくり隊 (大阪府岸和田市)

【写真と竹細工品 (竹籠等)】

2001年4月より16年間、府営の蜻蛉池公園内の“ふれあいの森(6.1ha)”を活動拠点として、里山保全の環境整備活動を行うとともに、府民に対して里山のしくみを知ってもらい、里山の自然に親しんでもらうための環境学習活動のイベントを“ファミリーメイト”と称し、年6回実施し、子ども達とその家族、そして次世代に里山を受け継いでもらうべく場の提供を行っています。



⑨吹田くわい保存会（大阪府吹田市）

【吹田くわいの歴史と文化及び保存会の活動】

活動の紹介（昨年の例）

●4/4 バケツ栽培講習会 ●4/17 総会 ●5/7、8 産業フェア参加 ●5/29 第1回「手作り市」で苗の販売 ●7/31「吹田祭り」の時、献上行列 ●（夏）市立博物館の夏季展示で、「なにわの伝統野菜」の展示、イベント等の参加 ●12/4「吹田くわい祭り」に参加 ●12/23 片山公園で、ガールスカウトの収穫作業を手伝う。他に、●休耕田で、栽培、収穫作業、●（1月）地区公民館で、調理実習、●新年度から、登録制を実施、●栽培状況調査（関大高瀬ゼミに協力）●吹田くわいだより「スイテンシス」のブログ公表。

販売品

※苗（1本100円）、タネイモ（2個100円）・・・変動あり。
「吹田くわいの本」（500円）、絵本「吹田くわいばな〜し」（800円）、CD（300円）、コースタ（250円）を販売しています。



⑩大阪ぐりぐりマルシェ（大阪府大阪市）

【ぐりぐりマルシェの風景および大阪市内のマルシェについて】

大阪市中央区心斎橋でのマルシェ（ファーマーズマーケット）で、今年で4年目。毎月第2土曜日、難波神社にて開催し、都市と農村の有機的な関係づくりを目指し、大阪を中心とした関西圏のオーガニックファーマーや加工業者、料理人、販売者、アロママッサージストなどが集結します。

Green Good Link（緑のよいつながり）＝ぐりぐりを合言葉に、安心、安全、こだわりものを直接作り手から買うことができ、出店者同士でもいいものを生かしつなげる情報交換が行われています。他の場所でもマルシェ開催の依頼が多く、交流の輪が広がっています。



⑪豊中緑化リーダー会（大阪府豊中市）

【会の支援活動の写真と花壇写真展示】

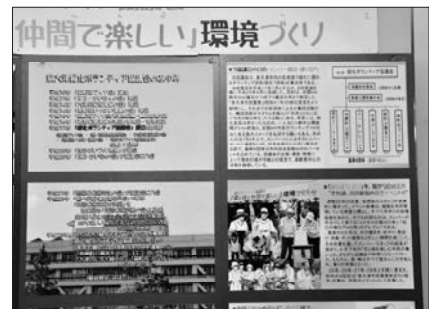
豊中緑化リーダー会は、「笑顔とみどりの溢れるまちづくり」を目標に掲げ、行政と協働し、パートナーシップを基本に自主運営する市民団体として活動しています。花壇づくりの他に、植物を育てる活動を公益活動へと結びつけ、子どもから高齢者まで、楽しく花と関わる活動が出来るように支援活動などをはじめとした緑化リーダー養成講座をシステム化し、運営する行政への支援、他の団体と市内を草花で彩り、広める活動を協働育苗という形で



⑫泉大津緑化ボランティア協議会（大阪府泉大津市）

【泉大津の市民緑化活動の仕組みと工夫】

当泉大津緑化ボランティア協議会は、泉大津市内の緑化ボランティア 7 団体を構成員とし、市民憲章を旗印として「市民とともに広げる花と緑のまちづくり」を展開しています。殊に、平成 25 年 4 月から立ち上げた「花と緑と仲間楽しい環境づくり」のスローガンで開催される「市民ガーデニング・コンクール」と「花と緑を楽しむ市民の集い」の中に確かな手ごたえを感じています。



⑬秋篠川源流を愛し育てる会（奈良県奈良市）

【活動状況を写真紹介、新曲「秋篠川」CD演奏披露】

近鉄あやめ池駅北側の住宅地を流れる秋篠川源流域 1.3km を活動の舞台としています。18 年前に桜 154 本を堤防に植え、地域の方に各桜の里親になってもらい、以後、川の清掃、さくら祭り、ふるさとウォーク等を毎年行っています。また、流域の児童 200 人に秋篠川美化に向けて標語や絵画を書いて貰い、桜幹に掲示しています。秋篠川が「ふれあい・いこい・ときめきの場」になるよう願っています。



⑭中区まちづくり咲一クル「花輪（かりん）」（大阪府堺市）

【花でつながる地域の輪】

堺市中区では「中区まちづくりビジョン」を作成し、区民と行政の協働により魅力あるまちづくりに取り組んでいますが、「花輪」は重点プランの一つであるまちの魅力の再発見と創造を実践するために平成 22 年に結成されたグループです。その活動は、春・秋に種から花苗を育て、中区内の各地域、学校、駅等に配布することで地域を飾ることや、月 2 回深井駅のフラワーポットの清掃、植替えを通して駅利用者に楽しんでもらうことです。他にも、育てた花苗を中区ウォーキンググループとコラボして、コース途中の小学校でウォーキングメンバー、小学生と一緒に花植えを行うことで世代間交流を目指しています。



⑮春日山原始林を未来へつなぐ会（奈良県奈良市）

【春日山原始林の保全について】

世界文化遺産「古都奈良の文化財」の一つとして、登録されている春日山原始林は、平安時代より禁伐となり、奈良の市街地に隣接する形で残された貴重な照葉樹林として、国の特別天然記念物にも指定されています。しかし、近年、いくつかの要因により、その原生的な植生を維持する事が難しくなっています。当会では、春日山原始林を次世代へ繋いでいくために、その魅力と価値を多くの方へ伝えるとともに、保全活動にも取り組んでいます。



⑯一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金（奈良県奈良市）

【学びと実践のための谷まると棚田の自然再生プロジェクトの

紹介及び活動参加公募】

当基金は、耕作放棄地や放棄林等を活用しかつての二次的自然を再生・保全することで、多くの生きものの命を救い育む生息地を確保・維持し、その一部に自然保護区を設けるプロジェクトを全国で実施しています。今回は、奈良市大柳生地区 26 枚の棚田が連なる谷まるとを数年かけて自然再生し、自然保護区とするプロジェクトを紹介します。外来生物が見られず良好な水源が確保できる好条件にあり、2017 年 1 月より基盤整備の活動を本格的に開始しています。協力者を募集中です。



⑰かのご里山村（兵庫県神戸市）

【活動紹介（ニュースレター）】

当会は平成26年4月に発足しました。月1回の定例会と少人数で週一回の活動を行っています。里山イベント等の安定した運営をするために自前の器材を揃え、施設を整備しつつ、参加者・会員募集の広報物を発行しています。「星の杜こども園」が所有する里山環境を再生して、タケノコ掘りや竹・ツタのクラフト、シイタケ栽培、野外料理などのイベントを開催し、子どもたちの遊び場としています。（ブログ「かのご里山村」で検索してください。）



⑱淡路島マンモス（兵庫県淡路市）

【里山資源を活用した観光と暮らしの提案】

淡路島マンモスとは淡路島の中央部に位置する20,000坪の里山環境を人の手で開拓して作った施設です。淡路島マンモスにはホテル&コテージ・プレーパーク・オーガニック農園といった施設があり、旅行者も島民もみんなが思い思いに過ごせる贅沢な自然空間が広がっています。宿泊の他、プレイパークの利用、毎月行っているイベントやワークショップへの参加など、どなたでもご利用いただけます。



⑱すみれ・花フレンズ（大阪府大阪市）

【会のメンバー・地域の取り組み・年間活動・

小学校の連携・癒しの園芸の取り組み】

地域活動をボランティアが独自に展開し、種花事業を基本に取り組み、地域の環境の美化を目的に活動しています。構成会員の能力の進化・社会貢献の実感・仲良く楽しくを合言葉に活動を続けています。小学校への花育授業、障がい者施設との交流、元気なメンバーが私たちの活動の力となっています。



⑳中京・花とみどりの会（京都府京都市）

【「中京区役所屋上庭園」及び

「京都みつばちガーデン推進プロジェクト」の活動紹介】

京都市中京区役所屋上において緑化ボランティア「中京・花とみどりの会」として発足し、10年を迎えました。養蜂を通じて都市の緑を考えるニホンミツバチの育成も5年になりました。屋上230㎡の芝生スペースを利用して、春はお茶会、秋には採蜜見学会や観月の夕べ等を開催しています。早朝の「朝蜂カフェ」として、英語でトーク（月曜日）、野菜講習会（木曜日）のグループも活動。随時、園児や児童の園芸体験会も行っており、緑化の推進に取り組んでいます。



「第5回みどりの交流広場」

開催概要

1. 趣 旨

地域での「緑化活動」、「生業・伝統文化の保全」など自然と関わる様々な分野で活動している市民、企業、団体等の発表や交流の場を設け、情報の共有や協働のネットワークを促進し、共生の輪を広げる。また、催しを通じて、花博理念である自然と人間との共生の普及・啓発につなげる。

2. 主 催 公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

3. 後 援 大阪府、大阪市、京都府、京都市、兵庫県、神戸市、奈良県、奈良市

4. 日 時 平成29年2月25日（土） 12:00～17:30

5. 場 所 第1部：事例発表（花博記念ホール）
第2部：交流会（なにわECOスクエア）

6. 発表者

講評者（コーディネーター）：田中晃代（近畿大学総合社会学部准教授）

発表団体：計20団体 ①口頭発表＋ポスター発表 10団体
②ポスター発表のみ 10団体

司会・進行：澤井里恵子（日本ハンギングバスケット協会 大阪支部 支部長）

7. 次 第 第1部 事例発表 13:00～16:10
ポスター展示 12:00～16:30
ポスターセッション 16:10～16:30
第2部 交流会 16:45～17:30

8. 参加者 第1部事例発表 120人
第2部交流会 50人

第 5 回 みどりの交流広場 発表集

平成 29 年 3 月

発行 公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036

大阪市鶴見区緑地公園 2 番 136 号

TEL 06-6915-4513

FAX 06-6915-4524

URL <http://www.expo-cosmos.or.jp>



EXPO'90
FOUNDATION